

島根県保健医療計画における施策の取組評価について 【5疾病・5事業及び在宅医療】

がん

R01年度中の取組み状況(県全体)

1. がん予防（発生リスクの低減、早期発見・早期受診）の推進

○がんの発生リスクについて、関係会議での説明、リーフレットへの掲載、新聞社のキャンペーン活用により周知した。具体的な生活習慣改善の取組は健康長寿しまねの推進事業において実施している。

○がん検診担当者会議や担当者研修会を開催し、がん検診の利益・不利益を含めた精度管理の正しい知識の理解促進を図った。胃がん検診従事者講習会（2/16）、子宮頸がん検診従事者講習会（3/5 新型コロナウイルス感染症対応のため中止）、乳がん精度管理向上講習会を開催（3/28 新型コロナウイルス感染症対応のため中止）。

○「かかりつけ医からの受診勧奨リーフレット」を作成し、県医師会と連携し、かかりつけ医から働き盛り世代に対してがん検診の重要性等の啓発や受診勧奨を実施した（配布先：病院・診療所約300か所）。

○全国健康保険協会島根支部と職域におけるがん検診の実施状況や受診率向上に向けた働きかけについて情報交換を行った。

○各二次医療圏域の取組について、保健所で実施している「圏域がん対策推進事業」の取組状況を確認し、必要な情報提供等を行った。

○がん検診体制実態調査の結果を踏まえ、検診体制の整備に向けて生活習慣病検診管理指導協議会各がん部会等で検討を行った。

○精密検査受診率向上のための効果的な受診勧奨の手法を検証する事業を行った。

○子宮頸がん検診の実施状況の把握及びがん登録情報の活用等による精度管理評価を行った。

○がんの死亡・罹患の状況、がん検診受診率等のデータを収集分析し、各種会議やホームページ等で情報提供を行っている。

2. がん医療

○平成30年7月に改定されたがん診療連携拠点病院の整備指針に基づき指定更新等の手続きを行った。新指針を満たすことで、医療機能の充実が図れるよう、関係機関等への働きかけなどを行った。

○がん診療連携拠点病院のない空白の2次医療圏域におけるがんチーム医療の質の向上のため、雲南、大田、隠岐圏域のがん情報提供促進病院に対し研修委託事業を実施した。併せて、拠点病院（松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院）に対し、地域の病院等に対する病院間連携パスの新規適用件数に併せて機能強化補助金の上乗せを行った。

○島根大学医学部歯科口腔外科講座が実施した令和元年度口腔がん集団検診への後援を行い、口腔がん及び口腔ケアの重要性について周知を行った。

○がん患者・家族、医療従事者、教育委員会などを構成員とする小児がん対策部会及びAYA世代のがん対策部会を開催し、世代特有の課題解決について検討した（1/30）。

○がん診療ネットワーク協議会がん診療部会において、合同研修会の活用による緩和ケア地域連携多種職カンファレンスなどによる人材育成の確認を行った。

○第3期がん対策推進計画において、がん予防・検診、がん診療、緩和ケアのそれぞれの体制の密な連携（機能分担）で最適な医療が提供できるよう取り組むことを掲げ、施策を実施している。

3. 緩和ケア

- 緩和ケア研修会及び緩和ケアアドバイザー養成研修を実施した。
- 緩和ケアネットワーク会議を開催し、緩和ケアの事例検討や在宅医療の課題解決の話し合いを行った（6圏域）。
- 保健所、医師会、がん拠点病院、市が連携して行った在宅の看取りに関する調査結果について、市広報誌に掲載するなどして普及啓発を行った。
- がん患者・家族、医療従事者、教育委員会などを構成員とする小児がん対策部会及びAYA世代のがん対策部会を開催し、世代特有の課題解決について検討した（1/30）。

4. がん登録

- 「がん登録実務者研修会」の3回開催に加え、「全国がん登録研修会」を開催して精度の向上に努めた。
- がん登録情報から圏域ごとのがんの罹患状況等を分析し、生活習慣病管理指導協議会各がん部会等で検討を行うとともに、各市町村・保健所へ情報提供した。また、がん登録情報を活用し、市町村の子宮頸がん検診の精度管理評価を行なうとともに、がん検診の受診を働きかける啓発資材（リーフレット）を作成した。

5. 患者支援

- 県のホームページや「しまねのがんサポートブック」の配布によりがん相談体制の周知を図るとともに、島根大学に委託しがん相談に携わる医療従事者を対象とした研修会を実施した。
- 県のホームページ「しまねのがん対策」をはじめとして新聞、テレビCM、各種リーフレット、イベントなどにより情報提供を行った。
- がんサロンやピアソーターが、ピアサポートの充実のために行う自発的取組（検討会や研修会の開催）へのサポートを行った。ピアサポート養成研修（厚労省委託事業）の受講により新たにピアソーター（1名）を養成した。
- がん治療による外見変貌を補完する医療用ウィッグや補正下着の購入費用を助成するとともに、松江市立病院と協力して講演会・相談会を開催した。
- がん患者・家族、医療従事者、教育委員会などを構成員とする小児がん対策部会及びAYA世代のがん対策部会を開催し、世代特有の課題解決について検討した（1/30）。

6. がん教育

- 県教育委員会と連携し、医療従事者等に対するがん教育外部講師養成研修を開催した（2/15）。また、学校が外部講師を活用して行う公開授業を支援するとともに、外部講師リスト作成のための調査を実施した。
- 健康づくり・健康経営を行う事業所を県が認定し支援する「しまね☆まめなカンパニー」事業により、従業員等に対するがん検診の啓発や治療と仕事の両立支援の取組を支援した。

がん

R01年度中の取組み状況（各圏域）

1. がん予防（発生リスクの低減、早期発見・早期受診）の推進

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○松江圏域健康長寿しまね推進会議において、生活習慣病予防に関する取組を推進し、活動推進交流会ではがん検診の重要性に関する啓発ブースを設置した ○松江市医師会主催の「第5回市民公開講座」において、まめなサポーターの協力により、がん検診受診率向上に向けた啓発を行った ○事業所出前講座では、働き盛り世代へ向けた健康教育として、大腸がんをはじめとするがんに関する知識の普及啓発を行った。
雲南	<ul style="list-style-type: none"> ○精検未受診者へのコール・リコールモデル事業の実施（各市町） ○大腸がん検診精検未受診者への受診状況調査（奥出雲町） ○公共機関での完全敷地内禁煙実施（病院、雲南合庁） ○禁煙外来開始（飯南病院）
出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○健康長寿推進会議の「たばこ・アルコール」「食生活」運動」「こころ」「歯科」の分科会を中心に、がんの一次予防について啓発 ○受動喫煙防止対策の取組「たばこの煙のない飲食店登録事業」「たばこの煙のない施設登録事業」を実施 ○禁煙キャンペーンを大型店舗（ゆめタウン出雲）で実施 ○改正健康増進法（受動喫煙の防止）についての周知を実施 ○事業主セミナーや圏域の地域・職域連携推進連絡会にて圏域のがん罹患の状況を共有するとともに、啓発を実施 ○がん検診チェックリストを元に、市と検診の実施体制を確認。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○健康増進法の一部改正に基づき、2019年7月の一部施行及び2020年4月の全面施行に向け、住民及び関係者への普及啓発や相談対応を実施 ○たばこ・アルコール対策、運動習慣の定着やバランスのとれた食生活など、がんになりにくい生活習慣づくりの啓発を、大田圏域健康長寿しまねや大田圏域地域職域連携推進会議等の取組に併せて実施（ウォーキングイベント、講演会、出前講座・防煙教室、たばこの煙のない施設登録拡大事業、がん征圧月間に併せたチラシ等の配布、各種イベント等における受診率向上の啓発など） ○ピンクリボンウォークinおおだ（主催：チームマンモしまね）への協力（9/29） ○保健所、市町担当者の連絡会で圏域の課題や各市町の取組等の情報共有、意見交換を実施（1/28）
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域健康長寿しまね推進会議歯と食の部会において、減塩・野菜摂取に関する啓発を実施。（R1.6.20食育街頭キャンペーン@ダップス本店／減塩・野菜摂取の啓発）（保健所） ○商工会議所に対し、改正健康増進法を踏まえた受動喫煙防止対策の説明実施（保健所） ○R1.10.20駅北医療フェスタにて、がん検診受診啓発グッズを配布。（保健所） ○浜田市、江津市へがん検診体制についてヒアリングを実施。結果を浜田圏域がん対策推進協議会メンバーへ年度内に文書にて報告予定。（保健所） ○浜田圏域職場の健康づくり情報ファイル（作成：浜田圏域地域・職域連携推進協議会）に、がん検診に関する情報を記載。（保健所） ○AXA生命や協会けんぽの事業所セミナー等にてパンフレット配布。（保健所） ○しまね☆まめなカンパニーの周知・登録拡大のため、事業所訪問、商工会議所各部会へ説明を実施（圏域健康長寿しまね推進会議 運動部会（保健所） ○R1.12.6ピンクリボンキャンペーン（主催：島根県環境保健公社）への協力（保健所） ○健診センターの医師増員による体制強化に取り組んでいる。（浜田医療センター） ○各がん検診の受託と、職域健診にがん検診が追加実施できるよう努めた。（環境保健公社） ○6種類のがん検診を実施。それに伴う受診勧奨、精密検査の受診勧奨。また、がん予防のための健康教育。（江津市）

益田	<ul style="list-style-type: none"> ○がん征圧月間（9月）、がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間（10月）に合わせて各種研修会やイベントでリーフレットや啓発グッズを配布。事業所に乳がん模型の貸し出しを行い啓発に取り組んだ。 ○「益田市をモデルとした子宮頸がん検診受診率向上事業」子宮頸がん啓発研修会を共催で開催するとともに、年度末の検討会に参加予定。 ○がん予防として重要なたばこ対策、栄養、運動等生活習慣の改善等について、益田圏域健康長寿しまね推進会議の中で啓発を行ったり、益田保健所けんこう応援出前講座で事業所に衛生教育を実施した。
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年4月から隠岐圏域の全ての小中学校が敷地内禁煙となった。町村庁舎における受動喫煙防止対策の推進を図るため、随時情報提供を行っている。 ○世界禁煙デー・禁煙週間にあわせ、街頭キャンペーンを実施したほか、小中学校への出前講座などを通じ意識づけを行った。 ○たばこの煙のない施設の登録制度を継続。保健所広報誌などを通じ周知を行った。 ○小学生、中学生、高校生を対象に、朝食の啓発等を図るため、朝食レシピを募集する「わが家の一流シェフin隠岐料理コンクール」を継続して開催している。 ○データ分析を行い、各町村及び関係機関への情報提供を行っている。 ○特に壮年期のがん死亡率が高く、中でも隠岐の島町においては「肺がん」による死亡が多いことから「肺がん」をテーマに啓発。受診啓発及び喫煙対策の強化を図った。

2. がん医療

大田	<ul style="list-style-type: none"> ○がん情報提供促進病院として、圏域3病院（大田市立病院、公立邑智病院、加藤病院）が指定更新された。他圏域のがん診療拠点病院との連携によりがん医療の向上、がん相談体制の整備及び普及啓発、情報提供事業の整備を推進。
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○「がん情報提供促進病院」として、浜田医療センターと連携して、がん情報の提供を行う。（済生会江津総合病院） ○「がん診療連携拠点病院」として、緩和ケア研修会で医師の他にも看護師や薬剤師が参加しており、緩和ケア研修会に参加した医療従事者を増やす取り組みを行っている。（浜田医療センター） ○口腔ケア等の普及のため、江津市医師会・歯科医師会の合同講演会を開催した。（江津市医師会） ○口腔ケアの普及・啓発を実施している。（歯科医師会）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○がん診療連携拠点病院として圏域のがん診療の中核的役割を持つ益田赤十字病院との緩和ケアネットワーク強化に向けて、緩和ケアアドバイザー連絡会等へ参画し、医療機関と地位の取組を情報共有すると共に、患者が適切ながん医療や療養支援を受けられるよう支援している。

3. 緩和ケア

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○松江圏域における緩和ケアの体制整備を図ることを目的に緩和ケア検討会を開催（2/25） ○「施設における緩和ケア」をテーマに事例検討会を実施。施設における取り組みや課題について参加者で共有した。
雲南	<ul style="list-style-type: none"> ○総会にあわせて人生の最終段階をテーマに研修会を開催（奥出雲町地域医療確保推進協議会） ○令和2年3月、ACPをテーマに、「もしばなカード」等も活用した研修会を開催（雲南圏域がん医療・緩和ケアNW連絡会）
出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○慢性期病棟における緩和ケアの取組が求められており、人材育成のための研修会を開催した（於寿生病院 3/11・9/25 医大と連携して開催） ○緩和ケア検討会において、圏域の現状と課題について関係機関と検討する予定（2/18開催予定）

大田	<ul style="list-style-type: none"> ○「緩和ケアネットワーク大田」と連携して「石見銀山がん哲学外来ミニカフェ」や「緩和ケアを考える集い」を開催している。R1年度は「石見銀山がん哲学外来ミニカフェ」を5回開催。10月27日「緩和ケアを考える集い」では「あなたががんになった時……守りたい日々の暮らし」をテーマに講演会等を開催した。地域住民約80人が参加。
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○緩和ケアアドバイザー養成研修会における実習を受け入れている。（訪問看護） ○「意思決定支援チーム」を作り、組織全体で緩和ケアを含める意思決定の支援体制を整えている。（済生会江津総合病院） ○関係機関への聞き取り調査を実施し、現状、課題をまとめ、今後の取組の方向性について検討した。（保健所） ○アドバンスケープランニングの取組を実施している。（浜田市・江津市） ○外部講師を招いてACP研修を実施したほか、当院の緩和ケアチームにより、ACPについてチーム医療活動報告を行っている。（浜田医療センター）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○益田赤十字病院の緩和ケアアドバイザー連絡会への参画 ○病院から地域へ切れ目ない緩和ケアの提供体制の構築を目指し、益田赤十字病院の緩和ケアアドバイザー連絡会との共催で、病院と地域の看護師職同士の看護連携の強化を目的とした事例検討会を実施。病院看護師と訪問看護師が顔の見える関係づくりができる機会となっている。 ○益田市医師会が基金事業を活用し「看取りカンファレンス」を開催。 ○圏域医療介護連携多職種研修会を「意思決定支援」をテーマに開催。圏域版意思表明支援シートの作成・活用を検討中 ○患者・家族の意思決定支援の取組として、吉賀町・津和野町の医療介護連携の取組として、住民とのワークショップや住民啓発取り組みが進んできている。 また、益田市医師会や保健所の出前講座としてACPに関する内容の要望を受け対応している。

4. がん登録

隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○がん登録に関する統計データを活用し、関係機関等へ圏域の現状等について情報提供している。
----	--

5. 患者支援

大田	<ul style="list-style-type: none"> ○10月27日「緩和ケアを考える集い」では「あなたががんになった時……守りたい日々の暮らし」をテーマに講演会等を開催した。地域住民約80人が参加。
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○ほっとサロン浜田を中心に開催されたイベント（R1.9.28開催）の実行委員会へ参画し、開催に向けて協力を行った。（保健所）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○「在宅医療・緩和ケア資源情報」を作成・随時更新し、情報提供を実施。 ○がんサロンの運営について、益田赤十字病院及び関係市町との連携・支援をしている。
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○がんサロンの活動が継続出来るよう、企画・広報等の運営を支援（島前地区） ○がんサロンすまいる10周年記念イベント「がんフォーラム」を開催。共催者として関係機関の運営を支援し一般住民等への啓発を行った。

6. がん教育

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○学校関係者、事業所などに向けた健康教育出前講座の実施した。
雲南	<ul style="list-style-type: none"> ○がん検診啓発センターと連携したがん教育を実施。（小学校2校、中学校2校、高校2校）
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもに最初の1本を吸わせないために、小中学校と連携した防煙教室を実施 ○高校の文化祭で、喫煙による健康被害の啓発を実施

浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○「がんサロン」とがん教育や啓発事業を実施した。（浜田市） ○がん等の疾患ごとに市民公開講座を開催し、普及啓発を行っている。（浜田医療センター）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校の授業の中で、がん教育を実施。 ○がん予防として重要な受動喫煙対策については、児童・生徒向けパンフレットを管内養護部会にて紹介。
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年4月から隠岐圏域の全ての小中学校が敷地内禁煙となった。町村庁舎における受動喫煙防止対策の推進を図るため、随時情報提供を行っている。 ○世界禁煙デー・禁煙週間にあわせ、街頭キャンペーンを実施したほか、小中学校への出前講座などを通じ意識づけを行った。 ○たばこの煙のない施設の登録制度を継続。保健所広報誌などを通じ周知を行った。 ○小学生、中学生、高校生を対象に、朝食の啓発等を図るため、朝食レシピを募集する「わが家の一流シェフin隠岐料理コンクール」を継続して開催している。

脳卒中対策

R01年度中の取組み状況(県全体)

1. 脳卒中予防（発症予防、早期発見）の推進

- 「日本高血圧週間」に併せ、関係団体や市町村と協働し、自分の血圧への関心を高める啓発を行った。
- 「脳卒中を知ろう」「それって脳卒中かも」チラシを活用し、発症予防や症状出現時の早期受診の啓発、心房細動の早期発見に関する啓発、減塩に関する啓発を関係団体の協力により実施した。
- 「地域・職域連携健康づくり推進協議会」の職域関係団体と協働し、事業所向け啓発チラシの配付を行った。また県ホームページ「しまね働く人と職場の健康づくり応援サイト」を充実させ、情報発信を行った。
- 事業所での健康づくりを進めるため、「しまね☆まめなカンパニー」登録事業所に対し、メールマガジンを活用して健康づくりに関する情報発信を行った。
- 保健医療関係者の資質向上を図るため、高血圧治療ガイドライン2019に基づき、高血圧の予防、血圧管理の重要性等をテーマに脳卒中対策研修会を開催した。
- 歯周病の早期発見、早期治療促進のため、かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受けることを啓発した。また、歯周病への関心を高め、正しい知識の普及を図るために、イベントや研修会の場において歯周病唾液検査を実施した。
- 県内医療機関の協力により、脳卒中発症者状況調査を実施した。
- 各圏域の実情に応じて脳卒中発症者の再発予防のための保健指導及び発症誘因調査を実施した。

2. 脳卒中の診断・治療

- 中国五県、関西広域連合及び各基地病院との協定により、ドクターへりによる広域的な医療提供体制を構築し、運用している。
- ドクターへりの適切な運用を図るため、症例検討会を開催した。
- 隠岐病院・隠岐島前病院と県立中央病院との間で、まめネットを活用した遠隔画像診断等が実施された。
- 口腔ケア技術の統一を図るため、歯科関係職種をはじめとする医療従事者、リハビリ専門職、介護関係者等多職種が活用できる口腔ケアに関する媒体を作成した。

○多職種連携による口腔ケアの重要性や口腔ケアを受けやすい体制づくりについて、地域口腔ケア会議において検討されている地域もあり、その取組が他地域へ波及するよう島根県歯科医師会と検討している。

3. 脳卒中医療連携体制

- 循環器病対策基本法に基づく今後の循環器病対策の推進体制について検討を行った。
- 二次医療圏域単位で地域医療構想調整会議を開催し、急性期後の回復期、慢性期、在宅医療等の提供体制について検討を進めた。

脳卒中対策

R01年度中の取組み状況（各圏域）

1. 脳卒中予防（発症予防、早期発見）の推進

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○松江圏域健康長寿しまね推進会議の広報誌等で脳卒中予防について啓発した。 ○まちの食育ステーション事業で地元スーパーと連携し、食生活改善推進員が食育の日等にあわせ、「うす味レシピ」の試食やレシピの配布を実施した。 ○しまね高血圧予防事業における啓発活動の実施した。 ○脳卒中地域連携バス合同委員会において、脳卒中発症者状況調査結果や松江圏域における取組状況、課題等について報告した。 ○働きざかりからの生活習慣病対策として、事業主セミナーを開催し、希望者には歯周病唾液検査を実施した。
雲南	<ul style="list-style-type: none"> ○AIを活用した特定健康診査未受診者対策の実施（奥出雲町）
出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○医師会等医療従事者を対象に高血圧治療ガイドラインに基づく脳卒中予防対策研修会実施。 ○地域・職域連携推進連絡会における「事業所での高血圧対策の取組」を実施し、定期的な血圧測定を推奨。 ○健康長寿しまね推進会議において、減塩対策、喫煙対策の実施。 ○商工会議所所報により、高血圧予防について働きざかり世代へ情報発信。 ○高血圧週間には、各商工会議所・商工会、健康長寿構成団体を通じて啓発チラシを配布。 ○医療機関及び市と連携し、脳卒中再発予防のための「脳卒中情報システム事業」を実施。また、「脳卒中情報システム事業」を「脳卒中再発予防事業」として見直ししモデル実施。 ○出雲圏域脳卒中予防対策検討会議のなかで、脳卒中発症状況調査等をもとに圏域の課題の共有と今後の方向性を検討。 ○市では、ハイリスク者に対する生活習慣の改善、脳卒中発症予防を目指し、脳卒中予防教室を開催。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○脳卒中発症者状況調査の実施（1/1～12/31） <ul style="list-style-type: none"> 管内は3病院の協力を得て実施。脳卒中発症状況に関する基礎データを把握、疫学的な分析を行い、能卒中予防対策に活用する。 ○脳卒中患者の再発防止支援の取組実施 <ul style="list-style-type: none"> 圏域内病院からの発症連絡を受けて、介護保険にかかる症状の脳卒中発症者へ市町保健師による訪問指導を実施。 ○事業所への出前講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> 「減塩・禁煙・運動」の内容で事業所にて健康教育を実施。 ○働き盛りへの啓発実施 <ul style="list-style-type: none"> 商工会総会でのチラシによる啓発やケーブルテレビを活用した啓発を実施。
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域健康長寿しまね推進会議各部会において、減塩・野菜摂取に関する啓発を実施。（R1.6.20食育街頭キャンペーン@ダップス本店／減塩・野菜摂取の啓発）【再掲】（保健所） ○商工会議所に対し、改正健康増進法を踏まえた受動喫煙防止対策の説明実施【再掲】（保健所） ○保健所内待合ロビーや健康長寿しまね推進会議総会時等に血圧計を設置し、家庭血圧の測定および血圧の適正管理を推進。（保健所） ○R1.8.7浜田圏域地域・職域連携推進協議会において、壮年期の脳血管疾患の実態について各種データを基に情報共有を実施。疾病予防および基礎疾患管理について啓発が必要であることを共通理解とし取組を推進している。（保健所） ○浜田圏域職場の健康づくり情報ファイル（作成：浜田圏域地域・職域連携推進協議会）に、各種健診（検診）に関する情報を記載。【再掲】（保健所） ○浜田市では、生活習慣病予防普及のため出前講座を実施した。 ○歯周病の予防対策を実施している。定期受診の普及など（歯科医師会） ○浜田医療センター退院後、同意を得られた方に対して、家庭訪問をし再発予防の指導を実施した。（浜田市） ○浜田医療センターや済生会江津総合病院からの情報提供をもとに、家庭訪問し保健指導を実施した。（江津市）

益田	<ul style="list-style-type: none"> ○脳卒中予防のための生活習慣の改善について、益田圏域健康長寿しまね推進会議を中心に啓発している。 ○「脳卒中情報システム事業」及び「脳卒中発症者状況調査」による情報交換を行い、「市町脳卒中対策担当者会議」や「益田圏域脳卒中等対策調整会議」で還元・評価するとともに、発症・再発予防に向けた今後の方向性を検討した。 ○今年度は、啓発のぼりを作成し、イベント等で家庭血圧の測定の周知を行った。 ○益田市において産官学と連携したITを活用したスマート・ヘルスケア推進事業（家庭血圧測定普及等）を実施。今年度は対象をモデル事業所職員だけでなく市民に拡大し実施。 ○病院から提出を受けた脳卒中発症連絡票を市町に送付し、退院後の訪問面接、保健指導につなげている。患者訪問時の状況報告書は、各市町から医療機関に還元されている。益田管内の4病院から退院連絡票の提出を受けている。（令和2年1月20日現在 25件訪問）
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○各町村で行われる産業保健関連の会議・研修において血圧管理の重要性について普及啓発を行っている。 ○各町村で行われるイベント等において、リーフレットを配布。 ○事業所訪問により、職場での健康づくり対策の実態を把握すると共に、具体的取り組みへの支援及び情報提供を行っている。 ○健康長寿しまね推進事業において、働き盛り世代の健康課題を共有し、「減塩」「受動喫煙防止対策」「適正飲酒」「運動普及」を取り組むことを確認。

2. 脳卒中の診断・治療

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○「脳卒中地域連携パス合同委員会（松江市）」及び「地域連携バス検討委員会（安来市）」へ参画し、バスの利用状況を確認するとともに、現状と課題についての意見交換の実施した。 ○松江・安来地域の歯科医師会とケアマネなどが中心となり口腔ケアの勉強会が実施された。 ○施設の職員等が活用できるよう「口腔ケアマニュアル」を松江市医師会で作成された。
雲南	○令和元年9月、脳卒中専門医が着任（平成記念病院）
出雲	○出雲圏域脳卒中予防対策検討会議を開催し、脳卒中発症状況調査等をもとに二次救急を担う医療機関と地域で圏域実態を共有。
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○脳卒中疑い傷病者の鑑別と、適切な医療機関（ドクターヘリを含む）へ早期に搬送している。（消防） ○救急からの2次医療、並びに回復期のリハビリテーションを実施している。（済生会江津総合病院） ○脳卒中チームを立ち上げ、脳卒中専用病床を整備した。（浜田医療センター）
益田	○消防本部における、益田地区救急業務連絡協議会（メディカルコントロール部会）において検討されている。

3. 脳卒中医療連携体制

松江	○圏域脳卒中予防検討会を開催し、圏域内の医療機関を含めた関係者と圏域の脳卒中の現状や課題について共通認識を図り、取組の方向性を検討する。（2月20日開催）
浜田	○脳卒中地域連携クリティカルパス合同委員会（主催：浜田医療センター）において、壮年期を中心とした脳卒中関連データを報告（保健所）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○益田赤十字病院・益田地域医療センター医師会病院・浜田医療センター・済生会江津総合病院と市町・保健所による「脳卒中地域連携クリティカルパス合同委員会」に参画 ○急性期から回復期、維持期と切れ目ないリハビリテーションの提供・医療介護サービスが相互に連携多支援を推進するため、「益田圏域生活療養ノート」を活用している。益田地域医療センター医師会病院のリハ科を中心に年間役200件、益田赤十字病院からも必要に応じて発行されている。

心筋梗塞等の心血管疾患

R01年度中の取組み状況（県全体）

1. 心筋梗塞等の心血管疾患の予防（発症予防、早期発見）、重症化防止の推進

○健康長寿しまね推進事業の一環として

・たばこ対策指針に基づき、受動喫煙防止対策と禁煙サポートの啓発を強化して取り組んだ。

・健康に関する情報を得にくい働き盛り世代に対して、地域のスーパーと連携して、食や健康に関する情報提供の場を増やした。また、「しまね☆まめなカンパニー」登録事業所に対し、メールマガジン等を活用し情報提供を行った。

○島根県保険者協議会、島根県国保連合会、全国健康保険団体連合会と連携し、特定健診の受診率向上、特定保健指導実施率の向上のための取組を実施した。また、地域と職域が連携し、健康経営の推進など職場における健康づくり環境の整備を推進した。

○歯周病予防、早期発見のため、歯周病唾液検査や歯っぴーまめなカード等各種媒体を活用し、イベント等での啓発を実施した。

○「日本高血圧週間」に併せ、関係団体や市町村と協働し、自分の血圧への関心を高める啓発を行った。

2. 病院前救護体制の確立

○心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与の実施のための講習及び実習、認定を実施した。

気管挿管 平成31年 4月 1日 184人

薬剤投与 平成31年 4月 1日 319人

ビデオ喉頭鏡 平成31年 4月 1日 135人

心肺停止前の静脈路確保及び輸液、血糖測定並びにブドウ糖溶液の投与

平成31年 4月 1日 270人

3. 心筋梗塞等の心血管疾患の診断・治療

○中国五県、関西広域連合及び各基地病院との協定により、ドクターへりによる広域的な医療提供体制を構築し、運用している。

○ドクターへりの適切な運用を図るため、症例検討会を開催した。

○各圏域の地域医療構想調整会議において急性期から慢性期・在宅医療までの各段階の医療機関間の連携、医療・介護の連携等について検討が進められた。

心筋梗塞等の心血管疾患

R01年度中の取組み状況（各圏域）

1. 心筋梗塞等の心血管疾患の予防（発症予防、早期発見）、重症化防止の推進

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○心筋梗塞等の心血管疾患の一次予防として、たばこ・アルコール、運動、栄養等生活習慣の改善についてイベント等の様々な機会で啓発した。 ○松江圏域働きざかりの健康づくり研修会（事業主セミナー）にて病気の早期発見・重症化予防をテーマにした講演を実施した。 ○事業所への出前講座等で生活習慣病予防等について啓発した。 ○松江圏域健康長寿しまね推進事業でかかりつけ歯科医をもつよう啓発。事業所での「歯周病唾液検査」普及のため事業主セミナーを活用して周知、希望者には検査を実施した。
	<ul style="list-style-type: none"> ○健康長寿推進会議の「たばこ・アルコール」「食生活」「運動」「こころ」「歯科」の分科会を中心に、メタボリックシンドロームや高血圧等を予防する生活習慣について啓発。 ○かかりつけ歯科医を持つこと、定期的な歯科受診を啓発するための媒体を作成中。 ○文化祭等の各種地域イベントで歯周病予防について啓発実施。
	<ul style="list-style-type: none"> ○大田圏域健康長寿しまね推進会議の各部会の取組で健康づくり活動を実施 ○事業所への出前講座の実施 「減塩・禁煙・運動」の内容で事業所にて健康教育を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ○R1.5.23に、医師、看護師、栄養士、行政等の多職種連携で、心血管疾患予防を考えるフォーラムを開催した。（江津市医師会） ○特定健診、特定保健指導を実施した。また、血圧等の検査値高値でかつ未治療者に対し、特定健診受診勧奨を実施した。（浜田市） ○歯周病の予防対策を実施している。定期受診の普及など。（歯科医師会） ○循環器疾患重症化予防のフローにより、レセプト点検、受診勧奨、保健指導を実施した。また、地域及び職域での健康教育の啓発活動を実施した。（江津市） ○急性冠症候群疑い傷病者の鑑別と、適切な医療機関（ドクターへりを含む）へ早期に搬送している。（消防） ○心肺蘇生等の中止を求められた場合の標準的活動プロトコルを作成し、カンファレンスを開催している。（消防）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○心疾患予防のための生活習慣の改善について、益田圏域健康長寿しまね推進会議を中心に啓発している。 ○益田市医師会が益田赤十字病院の心不全外来の開設に伴い、訪問看護師、施設職員、行政職員向けの学習会を実施された。心不全手帳等地域の啓発に活用したこと等の紹介があつた。
	<ul style="list-style-type: none"> ○たばこ・アルコール対策、運動習慣の定着、食生活の改善、こころの健康対策など、健康長寿しまね推進事業における部会を中心に関係機関と共に取り組みを継続。 ○町村・商工会との協働での事業所訪問により、受診勧奨・生活習慣改善の取り組みに向け、きめ細やかな働きかけを行っている。 ○健康福祉関係イベントにおいて「食塩含浸濾紙ソルセイブ」を活用し減塩啓発を行った。

2. 病院前救護体制の確立

益田	<ul style="list-style-type: none"> ○消防本部における、益田地区救急業務連絡協議会（メディカルコントロール部会）において検討されている。

3. 心筋梗塞等の心血管疾患の診断・治療

浜田	<ul style="list-style-type: none">○心血管疾患の専門治療を行う病院として、血栓溶解療法や冠動脈造影検査に続く経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を実施しており、心血管疾患に係わる救急医療を担う。 (済生会江津総合病院)○循環器内科と心臓血管外科で対応しており、継続できるよう医師確保を取り組んでいる。 (浜田医療センター)
益田	<ul style="list-style-type: none">○益田赤十字病院の循環器内科において心不全外来を開始。○医療介護総合確保基金のコーディネーター配置事業において、益田赤十字病院の循環器内科医師を講師として、訪問看護師や施設看護師等を対象に心不全の勉強会を開催。

糖尿病

R01年度中の取組み状況(県全体)

1. 糖尿病予防（発症予防、早期発見）の推進

- 健康長寿しまね推進会議では、県民一人ひとりが健康長寿をめざす11目標「ご縁でつなぐ まめなの輪」を定め、各種広報誌、イベント、啓発媒体を活用し、県民の生活習慣改善の必要性を啓発した。
- 島根県保険者協議会、国保連合会と連携し、市町村国保保険者に対する研修会・地区別研修会等で特定健診受診率向上や糖尿病重症化予防対策について情報交換等を行った。
- 重症化予防に向けた保健指導推進のため、市町村担当者連絡会や研修会を開催し、人材育成と取組状況の共有等を行った。
- 国保特定健診・事業所健診データの集計・分析、糖尿病に関する全国データの収集・蓄積と分析等、糖尿病に関するデータと県・市町村の取組との関連に関する分析を行った。

2. 糖尿病の診断・治療水準の向上

- 各会議等で島根県糖尿病予防・管理指針（第3版）の周知を図るとともに、第4版改定に向け検討を行った。
- 歯科医師会と連携し「糖尿病医科歯科連携研修会」を開催した。
- NPO法人島根糖尿病療養支援機構と連携し、糖尿病腎症重症化予防実践者育成事業を実施し、保健指導に従事する保健師や管理栄養士等の質の向上、地域における関係職種の連携を図った。
- 島根県医師会糖尿病対策委員会や島根県糖尿病委員会、各圏域糖尿病関連会議で検討された取組の推進、連携を図るため、糖尿病対策圏域合同連絡会議を医師会共催で開催予定であったが、資料送付による会議に代え、情報共有および意見収集を行った。

3. 糖尿病による合併症予防の推進

- 平成29年度に作成したチラシやポスターを用いて、各医療機関等の協力のもと、糖尿病重症化予防に関する啓発を実施。
- 各会議等で島根県糖尿病予防・管理指針（第3版）の周知を図った。
- 糖尿病患者に対する地域での歯科受診勧奨の体制づくりを目指し、島根県歯科医師会と医科歯科薬科連携の体制整備及び推進について取組を進めている。
- 糖尿病委員会を開催し、糖尿病対策について1次予防から重症化防止対策まで、総合的に推進していくことを関係機関と共有した。
- CKD対策も含む糖尿病腎症重症化予防対策の推進に向け、市町村糖尿病担当者会議で、平成30年7月にとりまとめられた「腎疾患対策検討会報告書」を踏まえた研修と情報交換を行った。
- 「血圧管理の重要性」「病診連携の取組」をテーマに、脳卒中対策事業と併せて研修会を開催した。
- 平成29年度に策定した島根県糖尿病腎症重症化予防プログラムの周知・活用を図り、平成31年4月に改訂された国のプログラムを受け、内容充実等検討を行った。
- 平成28年3月に作成した糖尿病教育媒体をさらに活用しやすい内容に見直しを行った。

4. 患者支援

- 合併症予防、重症化防止のための啓発ポスターを作成し、活用している。

糖尿病

R01年度中の取組み状況（各圏域）

1. 糖尿病予防（発症予防、早期発見）の推進

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○「松江地域糖尿病対策会議」や「安来市糖尿病管理協議会」に参画し、関係機関と連携して取組を行った。 ○安来市糖尿病管理協議会における、糖尿病の適正管理対策として「糖尿病患者登録システム」を導入し糖尿病のコントロール、悪化・合併症防止対策に取り組んでいる。今年度は登録システムの評価、今後の運用について支援を行った。 ○「松江地域糖尿病対策会議」や「安来市糖尿病管理協議会」に参画し、関係機関と連携して取組を行った。 ○松江地域、安来市それぞれに医科歯科連携の取組について検討。松江地域では松江市医師会、松江市歯科医師会、松江市薬剤師会と連携し、糖尿病連携手帳、おくすり手帳を活用した取り組みを実施している
	<ul style="list-style-type: none"> ○健康長寿の構成団体と共に、「たばこ・アルコール」食生活」「運動」「こころ」「歯科」の各分科会を中心に啓発を実施。 ○圏域健康長寿しまね推進計画の重点テーマとして、出雲ドームdeスポーツ&健康フェスティバル等各種イベントにおける啓発 ○商工会、JA等の広報紙に記事を掲載し、啓発を実施 ○健診データの分析を行い、各種会議にて活用 ○市において未受診者への受診勧奨実施 ○市において特定保健指導対象外の血糖高値者を対象に市内2地区3回シリーズで糖尿病予防教室を開催。さらに、これまで糖尿病予防教室を受講した者を対象にフォローアップ教室を開催。 ○市においてすこやかライフ健康相談を毎月実施
	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域健康長寿しまね推進会議の各部会の取組で健康づくり活動を実施。 ○保健所、市町担当者の連絡会で圏域の課題や各市町の取組等の情報共有、意見交換を実施(1/28) ○第13回世界糖尿病デー ブルーライトアップ・記念講演への協力、参加(11/7) ○各市町の健康教室や健康相談の場で、生活習慣に応じた保健指導を実施。 ○各市町では糖尿病対策フローを作成し、糖尿病連携手帳等を活用して、医療機関との連携を図っている。
	<ul style="list-style-type: none"> ○浜田圏域健康長寿しまね推進会議活動として、健康な食及び運動の推進を実施した。（保健所） ○浜田駅北医療フェスタでは、一般住民に対する血糖検査や糖尿病等相談の場を設け、幅広い年代層に糖尿病予防の啓発を行った。（浜田圏域糖尿病対策推進会議） ○各市においては、診療所からの紹介による個別栄養指導、保健指導を実施し、早い段階で生活習慣に応じた指導が受けられる体制を整えている。（浜田市・江津市） ○R1.9.26に、医師、薬剤師、看護師、行政等の多職種連携で、糖尿病重症化予防を考えるフォーラムを開催した。（江津市医師会）
	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣については健康長寿しまね推進会議の活動を中心に取組を推進している ○益田圏域の特定健診受診率は増加している。 (H30速報値 益田市:51.7% 和野町:42.7% 吉賀町:45.7%) ○世界糖尿病デーイベント in 益田（主催：益田地域糖尿病ネットワーク）において一般住民に対して体験コーナーや市民公開コンサートを開催し、糖尿病予防の啓発活動を行った。（R1年11月4日）
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○健康長寿しまね推進事業を中心に、働き盛り世代の健康課題を共有し、「減塩」「受動喫煙防止対策」「適正飲酒」「運動普及」を取り組むことを確認し活動を継続。 ○各町村の糖尿病対策の推進に向け、健診及び検討会に参画。 ○「隠岐の島町糖尿病対策検討委員会」に事務局として参画し、重症化防止の取り組み強化を図っている。併せて、「隠岐糖尿病セミナー」「スタッフ研修会」等により関係者のスキルアップと連携の強化に取り組んでいる。

2. 糖尿病の診断・治療水準の向上

出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○糖尿病予防対策検討会の開催（R1.9.10/R2.3） ○出雲医師会糖尿病対策検討会を中心とした「いずも合同カンファレンス」の取組
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○大田邑智糖尿病研究会が研修会を実施。 「GLP-1受容体作動薬の基本知識と実践」（9/4）
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○「浜田圏域糖尿病管理のしおり」を作成、隨時更新し、治療や生活指導に活かしている。（保健所） ○島根県西部糖尿病療養指導相談会主催で、コメディカルの資質向上のための研修会が開催された。（年3回）（保健所） ○浜田市においては、糖尿病腎症重症化予防に係るスタッフの研修会を、NPO法人島根糖尿病療養支援機構の協力のもと、3回シリーズで開催された。（浜田市） ○総合診療医と腎臓内科で対応しており、継続できる体制の確保に取り組んでいる。（浜田医療センター）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○益田圏域版の糖尿病予防システム（空腹時血糖110以上125以下、HbA1c6.0以上6.4以下は、糖負荷試験の実施）をH21年度から実施している。
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○保健所は「隠岐の島町糖尿病対策検討委員会」に事務局として参画し、重症化防止の取り組み強化を図っている。（CKDフローとそれに係る様式の検討、患者へのフォローアップ体制等） ○海士町糖尿病健診及び検討会に参画し保健医療が連携した支援体制を構築。

3. 糖尿病による合併症予防の推進

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○松江地域糖尿病対策会議における腎症重症化予防委員会に参画した。 <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病腎症重症化予防症例検討会、講演会への参加 ・世界腎臓病デー市民公開講座の開催 ○松江市におけるCKD（慢性腎臓病）の早期発見と重症化予防の取り組みを支援した。 ○安来市糖尿病管理協議会における「糖尿病管理マニュアル【平成30年度版】」による糖尿病の早期発見・治療の重症化予防対策実施に向けた支援を行った。 ○松江地域糖尿病対策会議は松江市歯科医師会から、安来市糖尿病管理協議会には安来市歯科医師会、安来地区歯科衛生士会から委員が参画し、医科と歯科の連携を推進している。
雲南	<ul style="list-style-type: none"> ○糖尿病性腎症重症化予防プログラムの運用（各市町） ○年数回、糖尿病サークル活動（大原、飯石、奥出雲）として、保健・医療・介護等の研修会を開催（雲南医師会）
出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○糖尿病患者やその家族に、学習する機会を提供するとともに、必要な方へは、既存の各糖尿病友の会につないでいくことを目的に、出雲圏域糖尿病予防対策検討会主催で糖尿病勉強会を開催。（年2回） ○出雲大社ブルーライトアップにおいて啓発を実施 ○糖尿病予防対策検討会で病診連携体制（「出雲圏域糖尿病療養支援における市との連絡及び診診・病診連携体制」）について検討 ○H30年度に歯科医師を対象に実施した「歯周病と糖尿病との医科歯科連携に関するアンケート調査」結果を踏まえて、出雲地区歯科医師会と連携して啓発を実施した。 ○糖尿病予防対策検討会で糖尿病性腎症発症防止の取組について検討 ○市においてCKDフォローアップ体制が確立され、出雲市国民健康保険特定健康診査受診者に対して、かかりつけ医と腎臓専門医の連携及び市の保健指導体制が強化された。 ○市において糖尿病性腎症重症化予防教室等を実施。 ○市において糖尿病の治療中断の可能性がある人に対して医療機関へ受診勧奨を実施。また医療機関と連携して、血糖コントロールや合併症予防のための保健指導を実施。 ○糖尿病予防対策検討会で糖尿病治療中断、糖尿病重症化予防啓発媒体を作成し、普及啓発に取り組んでいる。

大田	<ul style="list-style-type: none"> ○保健所、市町担当者の連絡会で圏域の課題や各市町の取組等の情報共有、意見交換を実施（1/28） ○市町ごとに連絡会等を開催し、今後の対策について検討をおこなった。 ○各市町では、腎症の発生予防・重症化防止に向けた取組を始めている。 ○保健所、市町担当者の連絡会で、市町の取組等の情報共有、意見交換を実施（1/28） ○生活習慣病予防の出前講座において糖尿病予防及び重症化予防の食に関する講話を実施。 ○糖尿病重症化予防等の啓発媒体を健康増進課が出かける支援の場において配布。
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○浜田駅北医療フェスタにおいて、ステージ上でのPR活動やブースの掲示物等により、治療継続の必要性について啓発した。（浜田圏域糖尿病対策推進会議） ○「浜田圏域糖尿病管理のしおり」により、適正管理のための連絡体制（医療機関間、医療機関から行政の栄養相談への紹介等）を共有したり、社会資源に関する情報提供を行い、各機関の連携を推進した。（保健所） ○浜田医療センター腎臓内科まとめによると、糖尿病腎症については、かかりつけ医から専門医に対してほぼ適切な時期に紹介されていた。（保健所） ○医科歯科連携し、歯周病の管理をしている。定期受診の普及など（歯科医師会） ○浜田圏域糖尿病対策推進会議構成団体として歯科医師会も参画してもらっており、「糖尿病管理のしおり」でも、圏域版診療情報提供書（医科↔歯科）による医科歯科連携を推進している。（保健所） ○駅北医療フェスタでは、一般住民に対し、チラシや啓発物により定期的な歯科受診が必要であることを啓発した。（浜田圏域糖尿病対策推進会議） ○各市においては、糖尿病腎症重症化予防に積極的に取り組んでおり、市独自でスタッフ向けの研修会を開催したり、医師会との協議の場を持ちながら、早期の糖尿病腎症に対する食事指導、生活指導に対応できる体制を整えている。（浜田市・江津市） ○電話や訪問等による定期的な受診勧奨、受診確認を実施している。（浜田市・江津市） ○県で作成した啓発媒体は必要に応じて配布。重症化予防の普及啓発については（啓発媒体の活用の有無にかかわらず）実施した。（保健所）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○世界糖尿病デーイベント in 益田（主催：益田地域糖尿病ネットワーク）において一般住民に対して体験コーナーや生活習慣病予防やロコモ予防をテーマにした曲等の市民公開コンサートを開催した。（R元年11月4日） ○一般診療所から糖尿病専門医（内科医・眼科医・歯科医）への紹介基準を、糖尿病連携ファイルを通じて周知している ○糖尿病性腎症重症化予防については益田市はH29年度から取組を実施、津和野町はR1年度から開始となった。（吉賀町も既存の糖尿病対策を重症化予防と連動して実施している）
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○保健所は「隠岐の島町糖尿病対策検討委員会」に事務局として参画。重症化防止の取り組み強化を図ると共に、予防に向けた住民啓発も継続。 ○保健所は「隠岐の島町糖尿病対策検討委員会」に事務局として参画し、保健と医療が連携した重症化防止の取り組み強化を図っている。（CKDフローとそれに係る様式の検討、患者へのフォローアップ体制等）

4. 患者支援

出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域内の6つの糖尿病友の会交流会の開催（R1.7.19） ○糖尿病勉強会を年2回開催（友の会会長からの体験談、友の会活動についてPR）
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○管内市町の糖尿病教室への参画、支援 ○圏域には6つの「糖尿病友の会」がある（病院・開業医3か所、地域3か所）
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○地域友の会については、各市（浜田市については支所）が事務局となり、患者や家族以外の糖尿病予備群や糖尿病に関心のある人も対象に含め、定期的な学習の場を提供している。（浜田市・江津市）
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○「隠岐の島町糖尿病対策委員会」に事務局として参画し、「糖尿病教室」の取り組み支援を行っている。

精神疾患

R01年度中の取組み状況(県全体)

1. 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築

- 二次医療圏域及び市町村において「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」を構築できるように研修会を開催した。(地域生活移行地域定着研修会: 2回)
- 精神障がい者の地域生活移行及び地域定着支援に関する協議の場を設け、関係機関と現状・課題、今後の取組の方向性について検討を行った。
 - ・二次医療圏域及び各市町村でより効果的な協議の場を設置できるよう、システム構築に向けた学習会を開催した。
 - ・市町村の体制の整備、協議の場の設置に向けた支援策として、一つの市に対して試験的に支援を行うとともに、各種会議、研修会で事例報告を行った。
- 建築関係機関との情報共有のため、居住支援協議会の場で「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築事業」の説明を行った。
- ホームページで相談窓口や各疾患ごとの医療機関を周知するとともに、精神疾患に対する正しい知識の普及を行った。

2. 多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築

(1) 各世代に対応した心の健康づくり

- ホームページ等で相談窓口や各疾患ごとの医療機関を周知するとともに、精神疾患に対する正しい知識の普及を行った。

(2) 各疾患に対応した医療提供体制の構築

ア. 統合失調症

- ホームページで相談窓口や各疾患ごとの医療機関を周知するとともに、精神疾患に対する正しい知識の普及を行った。
- 二次医療圏域及び市町村において「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」を構築できるように研修会を開催した。(地域生活移行地域定着研修会: 2回)
- 精神障がい者の地域生活移行及び地域定着支援に関する協議の場を設け、関係機関と現状・課題、今後の取組の方向性について検討を行った。
 - ・二次医療圏域及び各市町村でより効果的な協議の場を設置できるよう、システム構築に向けた学習会を開催した。
 - ・市町村の体制の整備、協議の場の設置に向けた支援策として、一つの市に対して試験的に支援を行うとともに、各種会議、研修会で事例報告を行った。
- 県内において円滑にクロザピンやmECTの治療を受けることができるよう医療体制のあり方を検討を行い、病院間調整を行った。
また、クロザピン治療支援体制整備事業の開始に向けて試行的に運用するなど準備を行った。

イ. うつ病・躁うつ病

- ホームページで相談窓口や各疾患ごとの医療機関を周知するとともに、精神疾患に対する正しい知識の普及を行った。
- 相談機関を記した「ストレスチェック表」を作成し、健康診断受診者等に配布した。

ウ. 児童・思春期精神疾患、発達障がい

子どもの心の診療ネットワーク事業において、拠点病院である県立こころの医療センターに心理士等を配置し、診療体制の強化、圏域の相談支援体制構築への支援を行った。

○県内に2カ所設置している発達障害者支援センターに配置した地域支援マネージャー3名を中心に、各関係機関と連携して、発達障がいのある人が身近な地域で切れ目のない支援を受けられる体制整備を行った。

○また、発達障がい者支援地域協議会や圏域ブロック会議等により、当事者や家族も含めた関係機関の連携を強化した。

○東西2か所において基礎講座および県民向けフォーラムを開催し、発達障がいに関する普及啓発を行った。

○また各発達障害者支援センターが開催する専門研修や保護者研修等を通じて、関係者の正しい知識の理解及び専門性の向上を図った。

○身近な地域で発達障がいなど子どもの心の問題に対応できる医師を増やすために、子どもの心の診療ネットワーク事業において、小児科・精神科のかかりつけ医等を対象として、診療対応力向上研修及び事例検討会を実施した。

エ. 依存症

○島根県アルコール健康障がい対策連絡協議会を開催し、各関係団体と現状と課題を共有し、連携を図るとともに強化すべき取組を確認した。

○早期にアルコール依存症治療へつなぐことができる体制を目指し、県内の内科医を始めとした医療機関に対してアルコール依存症医療研修を開催した。

○ギャンブル依存症に関する相談を行うとともに、ギャンブル障がい回復トレーニングプログラムを実施した。

○関係団体（断酒会）に対し、民間団体支援事業等により活動に対する支援を行った。

オ. 高次脳機能障がい

○成人及び小児別に、県内2カ所で研修会を開催し、一般県民や専門職、関係機関職員等への普及啓発を行った。

○高次脳機能障がい支援部会を開催し、家族、医療機関、福祉関係者等による取組の検証や支援のあり方等の検討を進めた。

○県内3カ所の地域支援拠点の地域支援コーディネーターを中心に、管内の各圏域相談支援拠点への支援や、地域連絡会議の開催、全国連絡会議や中国ブロック協議会への出席等の活動により、適切な支援をおこなうための連携体制の構築を図った。

カ. てんかん

○てんかん協会島根県支部と連携し、「子どものてんかん」と「大人のてんかん」について、理解を深めるための研修会を2回（東部・西部）行った。

○てんかん患者やその家族が医療にかかる際に必要な情報を得ることができるよう、医療機関に関する情報をホームページで提供した。

キ. その他の疾患（不安障がい・PTSD・摂食障がい）

ホームページで相談窓口や各疾患ごとの医療機関を周知するとともに、精神疾患に対する正しい知識の普及を行った。

ク. 認知症

R01年度中の取組み状況(県全体)

- 島根県認知症施策検討委員会を2回（9月、2月）開催し、認知症疾患医療センター設置や若年性認知症等の施策推進を図った。
- アルツハイマーの街頭キャンペーンを県内6市で実施（9月）。
- 県立図書館を活用した書籍等展示（9/6～10/2）、VR認知症体験会（9/24）を実施。
- 認知症サポートー養成講座の実施を呼び掛けるチラシを作成・配布。
- キャラバン・メイトを養成（64人）。
- キャラバン・メイトの活動推進のため交流会を開催（7月）。
※県内のサポートー養成数86,003名（R1.12月末時点）
- 認知症啓発に関するケーブルテレビ番組（県内各局で放送）とマンガ（2,000部）を制作。
- 新たに隠岐、雲南圏域の連携型センターを指定し、県内7圏域全てに8センターを設置済み（基幹型：1、地域型：2、連携型：5）。
- 養成研修の受講費を補助し、認知症サポート医12人を養成した。県内のサポート医は101人。
- 認知症サポート医実態調査を実施（H31.4月）。
- 認知症サポート医フォローアップ研修を実施（7月、8月）。
- 県内の認知症看護認定看護師は22人（R1.7月現在）。
- 認知症看護認定看護師を県内で養成（県立大学、松江医専）
- 関係団体、認知症疾患医療センターと連携し、次のとおり認知症対応力向上研修を実施。
 - かかりつけ医 64人 薬剤師 47人 歯科医師 31人
 - 看護職員 65人 病院勤務の医療従事者 65人
- 島根県福祉人材センター等へ委託し、次のとおり認知症介護研修を実施した（修了者数は予定）。
 - 基礎 123人 実践者 179人 実践リーダー 35人 指導者 1人
- 全19市町村に認知症初期集中支援チームと認知症地域支援推進員配置済み。
- フォローアップ研修の実施や養成研修参加費の補助、先進事例の紹介により市町村の取組を支援。
- 保健所の「こころの健康相談」や認知症コールセンターの運営により、本人や家族の相談支援を実施。
- 気軽に集い情報交換などができる「認知症カフェ」の設置状況を調査し、県ホームページに掲載した。15市町41カ所設置済み（R1年5月末時点）。
- 認知症カフェの推進のため交流会を開催（6月）。
- 若年性認知症相談支援センターを設置し、若年性認知症支援コーディネーターを3名配置（うち新たに西部担当1名）。
- 医療・介護・就労等の関係者による若年性認知症自立支援ネットワーク会議（8月、2月）を開催し、連携体制の構築図った。
- 企業向けに若年性認知症実態調査を実施（5月）。
- 企業等向けに若年性認知症研修会を実施（12月）。
- 本人や家族が利用できる制度やサービスをまとめた若年性認知症ハンドブックを更新。
- 市民後見人等の権利擁護人材の養成や普及啓発を実施する市町村に対し補助（6市1町）。
- 成年後見制度の普及啓発として、しまね人権フェスティバルに出展（11月）。

3. 精神科医療体制等の整備

(1)精神科救急医療体制

○各圏域において、24時間365日精神科救急に対応できるよう、空床確保を行った。

○県立こころの医療センターにおいて、精神科救急情報センターとして、24時間365日対応できる窓口を設置した。

(2)一般診療科との連携体制

○関係機関との情報共有等のため、島根県自死対策連絡協議会を開催した。

○精神科的問題を有する身体救急患者を円滑にフォーアップができるよう、救急医療部門の医療関係者に対して研修を行った（島根PECコース2回：出雲、益田）【島根地域医療支援センター（精神科医キャリアアップ支援ネットワーク事業）】

(3)災害派遣精神医療チーム(DPAT)の整備

○DPAT先遣隊のスキルアップを図るため、国の実施する研修等に参加した。

○国が主催する先遣隊研修に参加し、先遣隊を養成した。
また、後続隊の養成研修を実施し、後続隊を養成した。

○山口県で開催された「中国地区DMA T・DPAT合同実働訓練」に参加した。

(4)医療観察制度

○入院処遇中から帰住先の地域と緊密に連携し、本人や家族の意向に沿ったきめ細やかな支援による社会復帰を実施した。

(5)ひきこもり支援

○ひきこもり支援を行っている関係機関との情報共有等のため、「島根県ひきこもり支援連絡協議会」を開催した。

○心と体の相談センターに設置している「島根県ひきこもり支援センター」において、ひきこもり状態にある当事者や家族からの相談対応や小集団活動などの各種支援を行うとともに、市町村等関係機関への専門的支援や各圏域での家族教室を開催した。

精神疾患

R01年度中の取組み状況（各圏域）

1. 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域における精神障がい者の入院実態を把握するため、精神保健福祉資料（通称630データ）の分析を行った。 ○精神科訪問看護における現状、課題について把握し、次年度以降の多職種連携に向けた取り組みを検討する予定。 ○ピアサポーター等活用事業県要綱改正の動きを受け、ピアサポーター意見交換会、病院、委託先地域活動支援センターへの聞き取りを行った。3月中に地域活動支援センターへ活用周知を行う。 ○精神保健ボランティアフォローアップ研修を実施した。 ○長期入院者の地域生活移行、地域定着の支援体制づくりのため、6病院と現状・課題に関する意見交換の場を持った。 3月には、精神障がい者地域生活移行・地域定着支援圏域会議を開催し、現状・課題を共有、今後の取組を協議する予定。 ○松江市、安来市が開催する総合支援協議会や精神障害者の地域生活移行、地域定着支援を協議する場へ参加し、地域の資源についての現状、課題を把握した。
	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉事務所内に専任の子ども若者支援担当配置（飯南町）
	<ul style="list-style-type: none"> ○保健・医療・福祉関係職種に呼びかけ「心の健康づくり取り組み隊」へ登録していただいた講師の協力により、心の健康出前講座を実施し、精神疾患に対する正しい地域の普及を実施。（R1年12月末14回 523人） ○出雲圏域健康長寿しまね推進会議こころの分科会活動で、“心の健康を理解しよう” “ストレスと上手につきあう”をテーマに地域の広報誌を通じた啓発、イベントを通じた、多人数に向けた啓発活動を実施。 ○出雲市の支所（6カ所）及び保健所で心の健康相談を実施し、身近な場所で相談が実施体制を確保し、医療が必要な人への早期支援を実施。 ○心の健康相談（お酒の困りごと相談を含む）チラシ及びポスター作成し、相談日及び圏域内の精神科医療機関及び相談機関を関係機関へ周知。 ○出雲地域精神保健福祉協議会に「医療の連携と在宅支援に関する部会（出雲地域精神障がい者地域移行・地域定着圏域会議を兼ねる）を位置づけ、圏域の課題を共有（R1. 7. 19、R2. 2. 21予定）。部会に精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム推進検討ワーキングを設置し、長期入院患者の実態調査、精神科病院・相談支援事業所の状況調査、課題を検討（R1. 8. 28、R2. 1. 30予定）。 ○出雲市は協議の場を出雲市施策推進協議会に位置づける。 ○「医療の連携と在宅支援に関する部会」と「出雲市施策推進協議会の連携について、今後協議予定。 ○国のガイドラインに基づき、措置入院患者の退院支援を実施。 ○医療と地域との連携を目的とし、出雲圏域の4病院において精神障がい者地域移行・地域定着支援事業研修会および治療と地域職員の交流実習を実施。 ○ピアサポーター活動について関係者から意見聴取し、活動内容を検討。新たにピアサポーター1名を登録。 ○精神保健所包括支援会議を開催（2ヶ月1回）し、多機関・多職種による処遇困難事例のカンファレンスを行い、個別支援のバックアップ及び支援体制に関わる検討を実施。 ○出雲市で、第5期出雲市障がい福祉計画に基づき、出雲市障がい施策推進協議会のじりつ専門部会で地域生活支援拠点について検討。
	<ul style="list-style-type: none"> ○大田圏域医療福祉連絡協議会、精神障がい者地域生活移行・地域定着支援圏域会議を開催 ○住民や関係者・家族等へ研修会等を実施 ○ピアサポーターフォローアップとして、グループ活動支援を行っている。 ○市町自立支援協議会へ参画している。

浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○メンタルヘルスの出前講座や自死防止キャンペーンにて相談窓口の周知を行ったり、平成30年度に作成した子どもの心の心療ネットワーク事業にて子どもの心の支援機関機関一覧表を圏域内全ての小・中学校へ配布した。（保健所） ○浜田圏域自立支援協議会に精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築ワーキングを設置し、関係者で地域包括ケアシステム構築に向けて検討する場を設けた。（保健所） ○自立支援ボランティア活用事業により、精神障がい者の地域生活の支援を行った。 次年度からのピアサポート活用事業の見直しに向けて相談支援事業所等と検討を行った。（保健所） ○浜田市では、こころの健康づくりネットワーク会議や、こころの健康づくり講演会を通じて、見守り体制の充実を図ると共に啓発事業を実施した。また、学校へ講師派遣もしている。
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○精神疾患の正しい知識の普及について、H30年度より「心の輪を広げ隊（普及啓発を行う当事者組織）」を保健所で立ち上げ、より身近なところで精神障がい者からの体験発表と保健師による専門知識の講演を行っているた。 ○地域移行支援・地域定着支援事業 圏域会議を開催実施し、関係機関による退院支援や退院意欲喚起等について検討を行っている。 ○精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築や精神障がいの特性を理解し対応できる関係者を増やすため従事者研修会を開催した。 ○益田市において、県のモデル事業として「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組」を行っている。島根県（障がい福祉課）と保健所で後方支援を行い、検討を重ねている（平成32年度末まで）。この事業の中で、住まいの検討会と題し、住宅の関係機関と病院、行政で話し合いを実施した。 ○鹿足郡においては協議の場の設置に向けての後方支援を行っている。 ○長期入院患者の退院意欲を喚起するために、地域生活経験者の見学会を開催した。 ○高齢の長期入院患者の退院先の一つとしてあげられる養護老人ホームにおける精神障がい者への対応状況等に関する調査を行った。
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○こころの健康ボランティア講座を開催し、精神疾患に対する正しい知識の普及を行っている。 ○「隠岐圏域精神障がい者地域生活移行・地域定着支援会議」を開催。圏域の課題の確認と関係機関との連携による今後の取り組みの検討を行っている。特に「本土長期入院者への働きかけ」「入院患者が地元関係者とのつながりを保つ」「地域での生活ができる限り長く続くための支援」について協議を行った。 ○「ピアサポート」について関係者が学び、今後の支援のあり方について研修を実施した。 ○保健所は町村の自立支援協議会へ参画し、町村での具体的な取り組みに向けた支援を継続。 ○隠岐地域の精神科医療体制の確保に向け、関係機関との情報交換・連絡を実施。

2. 多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築

(1) 各世代に対応した心の健康づくり

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○心の健康づくりに関する知識の普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> ①出前講座の実施 働きざかり層を対象に8事業所で、若者を対象に2専修学校で実施した。 ②キャンペーンの実施 世界自殺予防デー（9月10日）にあわせての取組 各種専修学校等の若者への情報発信 自死対策強化月間（3月）の取組 ○相談等の対応 <ul style="list-style-type: none"> ①定期相談：保健所の心の健康相談・アルコール相談 ②保健師等による訪問・電話相談・来所相談対応
----	---

出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○保健・医療・福祉関係職種に呼びかけ「心の健康づくり取り組み隊」へ登録していただいた講師の協力により、心の健康出前講座を実施し、精神疾患に対する正しい地域の普及を実施(R2年12月末14回 523人) ○出雲圏域健康長寿しまね推進会議こころの分科会活動で、“心の健康を理解しよう” “ストレスと上手につきあう”をテーマに地域の広報誌を通じた啓発、イベントを通じた、多人数に向けた啓発活動を実施を実施。 ○心の健康相談（お酒の困りごと相談を含む）チラシ及びポスター作成し、相談日及び圏域内の精神科医療機関及び相談機関を関係機関へ周知。 ○健康長寿しまね心の分科会と自死総合対策に関する部会（出雲圏域自死総合対策連絡会を兼）が連携し、自死予防週間、自死予防対策強化月間に街頭キャンペーンを実施。 ○出雲市の支所（6カ所）及び保健所で心の健康相談を実施し、身近な場所で相談が実施体制を確保し、医療が必要な人への早期支援を実施。
	<ul style="list-style-type: none"> ○大田圏域健康長寿しまね推進会議の心ゆたかにチャレンジ部会で普及啓発を実施 ○こころの健康相談（所内・巡回相談）や思春期のこころの健康相談等や訪問や電話等による相談を隨時実施
	<ul style="list-style-type: none"> ○心の相談を実施し、チラシを作成して周知した。 メンタルヘルス出前講座を行った。（保健所）
	<ul style="list-style-type: none"> ○出前講座で地域や事業所に出かけ、普及啓発及び相談窓口の周知等を行った。また、出前講座について、各種会議・研修会の場でチラシ配布等による周知を行った。 ○関係機関の窓口、各種会議・研修会、自死予防週間等の市町でのキャンペーンの場でストレスチェック表・相談機関一覧表を配布し周知を行った。 ○自死予防週間、自死対策強化月間ににおいて、市町にハートメガフォンのケーブルテレビ放送を依頼し、啓発を図った。また、各市町の広報等でも啓発を行った。 ○「働く人の健康づくりセミナー」と健康長寿しまね推進会議の「こころの相談従事者研修会」を同時開催し、疾患の正しい理解や仕事との両立等、日頃メンタルヘルスの相談に対応している相談従事者の資質の向上を図った。
	<ul style="list-style-type: none"> ○こころの健康出前講座を実施。 ○町村と協働し「ゲートキーパー養成研修」を実施。 ○「隠岐圏域こころの健康ホットライン」ちらしを作成し、相談窓口の周知を図っている。あわせて健康長寿しまね推進事業の中でも普及啓発を継続している。

(2) 各疾患に対応した医療提供体制の構築

ア. 統合失調症

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○「精神障害者の退院後支援に関するガイドライン」に沿って、措置入院者の退院後支援を実施している。
	<ul style="list-style-type: none"> ○出雲地域精神保健福祉協議会に「医療の連携と在宅支援に関する部会（出雲地域精神障がい者地域移行・地域定着圏域会議を兼ねる）を位置づけ、圏域の課題を共有し、協議（R1.7.19、R2.2.21予定）。部会に精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム推進検討ワーキングを設置し、精神圏域の長期入院患者の実態調査、病院・相談支援事業所の状況調査、課題を検討（R1.8.28、R2.1.30予定）。 ○医療と地域との連携を目的とし、出雲圏域の4病院において精神障がい者地域移行・地域定着支援事業研修会および治療と地域職員の交流実習を実施。 ○出雲圏域精神保健包括支援会議を開催（2ヶ月1回）し、多機関・多職種による処遇困難事例のカンファレンスを行い、個別支援のバックアップ及び支援体制に関わる検討を実施。 ○入院中に開催される支援会議に、相談支援事業所、行政保健師、訪問看護師などが参加し、地域生活への円滑な移行を支援。
出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○大田圏域医療福祉連絡協議会、精神障がい者地域生活移行・地域定着支援圏域会議を開催 ○住民や関係者・家族等へ研修会等の実施 ○ピアサポートフォローアップとして、グループ活動支援を実施 ○市町自立支援協議会への参画 ○石東病院・市町・保健所にて長期入院患者について情報共有を図るために連絡会を開催
大田	

浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○治療継続支援にかかる検討会を開催し、事例をとおして地域定着支援の検討を行った。（保健所） ○浜田圏域自立支援協議会に精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築ワーキングを設置し、関係者で地域包括ケアシステム構築に向けて検討する場を設けた。（保健所）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○地域移行支援・地域定着支援事業 圏域会議の中で検討している。
隱岐	<ul style="list-style-type: none"> ○「隱岐圏域精神障がい者地域生活移行・地域定着支援会議」を開催。圏域の課題の確認と関係機関との連携による今後の取り組みの検討を行っている。特に「本土長期入院者への働きかけ」「入院患者が地元関係者とのつながりを保つ」「地域での生活ができる限り長く続くための支援」について協議を行った。 ○保健所は町村の自立支援協議会へ参画し、町村での具体的な取り組みに向けた支援を継続

イ. うつ病・躁うつ病

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○うつ病に関する知識の普及啓発 事業所等での出前講座において、ストレスに対するセルフケア、ストレスチェック、うつ病とその予防等について説明を行った。 ○松江圏域働きざかりの健康づくり推進連絡会において、松江圏域職場の健康づくりのためのアクションプランの取組として、メンタルヘルス対策を1つの柱に掲げ、関係機関との連携を図り、取組をすすめている。 ○医療連携ワーキングの開催 うつ病を含めた精神的な不調を抱えた人に早期対応する際の知識や技術の習得、精神科専門医との連携強化を目的としたかかりつけ医等研修を企画、実施した。 ○松江圏域周産期医療連絡協議会看護連絡会では、妊娠婦の状態を確認する質問票について、各医療機関での活用状況や課題を確認した。 ○松江圏域周産期医療連絡協議会看護連絡会では、「メンタルヘルスに問題のある妊娠婦への支援」をテーマに産科精神科連携について検討を行った。
出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○保健・医療・福祉関係職種に呼びかけ「心の健康づくり取り組み隊」へ登録した講師の協力により、心の健康出前講座を実施し、精神疾患に対する正しい地域の普及を実施。(R2.12月末14回 523人) ○出前講座時にうつ病に関する○×クイズ・アンケート、職域においてはストレスチェックを加えて実施し、ストレスチェックの結果返信時にセルフケア情報を提供。 ○若年者、職域への啓発を強化することとし、島根大学の看護学生1年生(56名 R2.1.9)、ハローワーク(18名 R1.10.7)、トリニティカレッジ(55名 R2.1.7)を対象にゲートキーパースキルアップ養成研修を実施。 ○出雲圏域健康長寿しまね推進会議こころの分科会では、“心の健康を理解しよう” “ストレスと上手につきあう”をテーマに地域の広報誌を通じた啓発、イベントを通じた、多人数に向けた啓発活動を実施。 ○出雲市の支所(6カ所)及び保健所で心の健康相談を実施し、身近な場所で相談が実施体制を確保し、医療が必要な人への早期支援を実施。 ○心の健康相談(お酒の困りごと相談を含む)チラシ及びポスター作成し、相談日及び圏域内の精神科医療機関及び相談機関を関係機関へ周知。 ○出雲圏域地域・職員連携健康づくり推進事業において、商工会議所の広報誌、事業所への心の健康出前講座の取組を実施。 ○一般診療科医の精神疾患対応力向上を図るとともに精神科医療機関との連携強化を目的に、かかりつけ医のための精神疾患研修会を医師会と連携して開催(R1.12.6)。 ○出雲圏域周産期看護連絡会(R1.11.7)、出雲圏域周産期医療体制検討会(R1.12.17)において、周産期のメンタルヘルスの現状・課題について情報共有し、連携について協議。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○行政職員や教員、消防署職員等を対象にゲートキーパー養成研修を開催 ○相談機関の周知及びストレスチェック表の普及を図った ○妊娠婦期における産後うつ等のメンタルヘルスの不調を早期発見・対応するため質問票を産婦人科医療機関や市町で活用し、早期から関係機関が連携し対応している

浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○9月の自死予防週間に、江津市内のショッピングモールにて、うつ病、自死予防、相談連絡先などを記載したパンフレットを配布することで、地域に対する普及啓発活動を実施した。（保健所） ○各関係機関に啓発用パンフレットなどを配布し、窓口等に配置してもらうことで、更なる啓発活動を促した。（保健所） H27.12月施行の改正労働安全衛生法に基づく「ストレスチェック制度」について、職域健診に併せて検査を受けてもらえるよう努めた。（環境保健公社）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○出前講座で地域や事業所に出かけ、普及啓発及び相談窓口の周知等を行った。また、出前講座について、各種会議・研修会の場でチラシ配布等による周知を行った。 ○関係機関の窓口、各種会議・研修会、自死予防週間等の市町でのキャンペーンの場でストレスチェック表・相談機関一覧表を配布し周知を行った。また、各市町の広報でも啓発を行った。 ○研修会等の場でうつ病啓発用パンフレットを配布し啓発を行った。 ○うつ病等の早期発見・早期対応に向け、「働く人の健康づくりセミナー」と健康長寿しまね推進会議での「こころの相談従事者研修会」を同時開催し、疾患の正しい理解や仕事との両立等、日頃メンタルヘルスの相談に対応している相談従事者の資質の向上を図った。 ○益田日赤と松ヶ丘病院が連携し、精神科受診中の妊婦の産前、産後のフォローを行うことにより、対象妊婦の支援だけでなく、産婦人科と精神科の連携を強化している。
島根	<ul style="list-style-type: none"> ○こころの健康出前講座を実施。 ○町村と協働し「ゲートキーパー養成研修」を実施。 ○「隠岐圏域こころの健康ホットライン」ちらしを作成し、相談窓口の周知を図っている。 ○事業所訪問において相談窓口の周知等を継続している。 ○病院及び町村において、「EPDS】等の3種の質問票を活用し産後うつのスクリーニングを行い、関係者で連携し支援継続されている。

ウ. 児童・思春期精神疾患、発達障がい

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの心の健康相談の実施 様々な心の問題を抱える子どもや家族、その関係者の相談に対応した。 ○松江圏域子どもの心の診療ネットワーク医療連携推進会議を開催。 ○医療、保健、福祉、教育等の関係機関の連携強化を図り、身近な地域で相談を受け、適切な診療や支援につながる体制を検討した。 ○中央研修派遣：精神科医1名
出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○出雲市子ども・若者支援センター、出雲市教育委員会と連携し、子どもの心の健康相談を年4回実施。 ○出雲地域精神保健福祉業会の部会に「出雲圏域子どもの心の診療ネットワーク会議」と位置づけられました。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○思春期こころの健康相談の実施 ○圏域内の中学1年保護者全数に思春期のこころとからだに関する保健所作成リーフレットを配布 ○関係者のスキルアップを目的に思春期事例検討会(12/3)を実施 ○子どもの心に関する関係者研修会(12/26)を実施
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度、支援機関等が各機関の取組を相互理解し情報の共有化を図ることを目的に作成した「浜田圏域子どもの心の支援機関情報一覧」を全小中学校に配付。（保健所） ○医療と教育の連携を図るため、2月に研修会を開催予定。（保健所） ○11月に圏域内の医師に、中央派遣研修に参加していただいた。同医師に復命研修をしていただくため調整中。（保健所）

益田	<ul style="list-style-type: none"> ○県立こころの医療センターの協力を得て、子どもの心の相談を実施した。（今年度3回実施） ○子どもの心の相談窓口一覧を更新した。 ○子どもの心の診療ネットワーク会議や従事者研修会を開催し、情報共有や資質の向上による連携体制づくりを検討している。 ○従事者研修会を開催し、ネットワークの構築を図るとともに事例検討も行いながら、従事者の資質の向上を図った。 ○圏域医師等を中心研修に派遣し、子どもの診療に対応できる医師を増やし、早期対応が図れるよう努めている。（令和元年度は公認心理師を派遣）
	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの心の診療ネットワーク事業において、思春期の子どもを支援する関係者によるネットワーク会議及び事例検討会を開催し、具体的な対応だけでなく、関係者の連携の強化につながっている。

エ. 依存症

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○アルコール相談の実施 専門医療機関及び断酒新生会の協力のもと、本人や家族からの相談に対応
	<ul style="list-style-type: none"> ○島根県断酒新生会出雲支部の酒害相談員の協力により、お酒の困りごと相談を月1回開催。また、酒害相談員等連絡会を開催し、事例から課題を協議（R2.3.16予定）。 ○断酒会例会の会場を提供し（月1回）、活動を支援。 ○H30年度から出雲地域精神保健福祉協議会の委員として島根県断酒新生会出雲支部に加わってもらい、圏域内の課題として協議する体制とした。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○こころの健康相談やアルコール依存症等を含む相談に対応した。 ○アルコール健康障がいを含む普及・啓発や相談窓口の周知を図った。 ○島根県断酒新生会研修会への参加（6/9）及び支援
	<ul style="list-style-type: none"> ○お酒の困りごと相談の定期実施や個別相談に対応している。 ○平成30年度松ヶ丘病院がギャンブル依存症等拠点医療機関に選定され、今年度は山陰初のG A 益田グループが発足された。松ヶ丘病院におけるギャンブル依存症の取組やG A 益田グループの周知、顔の見える関係づくりと対応技術の向上のため、益田圏域ギャンブル依存症研修会を開催した。
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○健康長寿しまね推進事業等の中で、適正飲酒等アルコール問題の予防について啓発を行っている。 ○依存症対策として「SAT-G】に関する研修会を実施。

オ. 高次脳機能障がい

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○地域支援拠点が開催する研修会への参加。 ○相談対応し、必要時医療機関を紹介した。
	<ul style="list-style-type: none"> ○拠点病院（エスポアール出雲クリニック）が、ネットワーク会議、研修会等を開催。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域支援拠点を中心に高次脳機能障害に対する理解を深めるために、普及・啓発や相談窓口の周知を図っている。 ○二次医療圏域のネットワーク会議の参画。
	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域会議が開催されるとともに、事例検討も行われ、関係機関の連携や支援者の資質の向上につながった。

カ. てんかん

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○相談対応し、必要時医療機関を紹介した。

キ. その他の疾患（不安障がい・PTSD・摂食障がい）

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○相談対応し、必要時医療機関を紹介した。
	<ul style="list-style-type: none"> ○疾患を限定せずに、心の健康相談、子どもの心の相談を実施しており、必要に応じて医療機関、教育機関等と連携している。（保健所）

ク. 認知症

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○松江市内に認知症疾患医療センター（連携型）設置予定。 今後、県から国へ協議書を提出し、内示を受ける予定。 その後、県によりR2年10月1日に指定となる。 設置を希望している医療機関 <ul style="list-style-type: none"> ・松江青葉病院 ・こなんホスピタル ・まつしま脳神経内科クリニック
雲南	<ul style="list-style-type: none"> ○月2回認知症予防運動プログラム「コグニサイズ教室」を開催（平成記念病院） ○令和元年10月、認知症疾患医療センター（連携型）に指定（奥出雲コスモ病院）
出雲	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症サポート医と連携し、認知症対応力向上研修会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 薬剤師会対象（11/12） 歯科医師会対象（11/27） <p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○残薬調整など薬剤師と医師の連携の必要性について確認した。 ○処方薬について、薬剤師から処方医に確認することの敷居は低くなっている。 ○連携の方法としては、トレーシングレポートの活用が考えられるが、関係者間での工夫が必要 ○お薬手帳の一冊化のための仕組みづくりを、薬剤師会で検討が必要。また、患者への周知も必要。 ○かかりつけ薬局を持つこと、受診時にはお薬手帳を持参することの周知は引き続き必要。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○連携型認知症疾患医療センター（大田シルバークリニック）の協議会運営の支援を行った <ul style="list-style-type: none"> ・認知症講演会（7/13）の周知と参加 ・作業部会の開催（10/31） ○大田市内で「認知症の人にやさしいまちづくり RUN伴しまね2019」が開催された（10/21） ○こころの健康相談や保健師の随時相談で対応 ○世界アルツハイマーにおける啓発（9/21） ○邑智郡地域連携推進協議会研修会（11/2）への参加 ○かかりつけ医認知症対応力向上研修（10/6県主催）への協力
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度から今年度にかけてサポート医の活動について認知症疾患医療センターと協議し、11月に浜田圏域のサポート医連絡会を実施。（保健所） ○9月に世界アルツハイマー街頭キャンペーンに参加し、スーパーで一般住民に向けてグッズを配布（保健所） ○認知症サポートの受講を推進しました。（訪問看護）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○H27.10月に松ヶ丘病院が地域型認知症疾患医療センターに指定され、連絡調整をしながら事業の円滑な推進を図っている。 ○圏域の認知症ネットワーク会議を年1回開催し、関係機関と認知症対策の取組状況、方向性を検討する場としている。 ○認知症サポート医連絡会を開催し、サポート医の役割やサポート医と地域との連携について検討を行った。現在、県内養成のサポート医は12名。 ○認知症支援懇話会（研修会）を開催し、事例検討も行いながら、従事者のスキルアップを行った。また、関係機関（医療関係、介護関係、行政、家族会組織、キャラバンメイト等）に認知症サポート医を知ってもらう機会となった。 ○サポート医の活動状況や今後の取組を把握し、地域とのネットワーク構築のため、新規サポート医に訪問を行った。 ○適切な診療の提供や本人・家族を支える対応ができるよう三師会合同認知症対応力向上研修会を開催した。 ○早期発見・早期相談につながるため、認知症チェックリストチラシの更新を行った。 ○アルツハイマー街頭キャンペーンに益田圏域認知症ネットワーク会議として共催・参加し、普及啓発を行った。 ○支援者が公共交通機関を利用して通院や買い物すること大変さを体験する「まだバス体験ツアー」を行った。

隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○保健所が、各機関の連携体制の構築に向け、各町村や関係機関に出向き認知症対策の現状と課題の整理等を継続して実施している。 ○令和元年10月1日に隠岐病院が「認知症疾患医療センター」を設置し稼働。研修会及び連絡会をセンターと共に企画運営実施。今後も関係機関との意見交換の中で、連携した認知症対策の推進を図っていく。

3. 精神科医療体制等の整備

(1)精神科救急医療体制

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○平日の昼間、保健所が精神科救急情報センターとして、本人や家族、関係機関から精神科救急医療に関する相談に応じ、受診調整や支援を実施。 ○地域の精神科救急医療体制についてのパンフレット（精神科救急情報センター、輪番病院を記載）を作成し関係機関へ配布 ○精神科救急医療体制整備圏域連絡調整会議の開催予定 ○精神保健福祉法に基づく措置診察等の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ○精神科救急医療体制整備出雲圏域連絡調整会議を開催（R1.12.5）し、精神科病院、消防、警察等と協議。 ○精神科救急空床確保業務当番病院に基づき、各月の当番病院において空床確保を確認。 ○夜間、休日にかかりつけ医療機関で対応出来ない場合、島根県精神科医救急情報センターが対応することを周知。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○精神科救急情報センター機能として相談対応を実施。 ○精神科救急医療体制整備圏域連絡調整会議を開催。
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○精神科救急医療体制整備圏域連絡調整会議を開催（予定）（保健所） ○精神科救急医療体制整備事業において、関係機関へヒアリングを実施し、本年度における諸問題や課題感などを聴取した。（保健所） ○精神科救急情報センター（平日日中）事業を引き続き実施した。（保健所）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○精神科救急医療体制利益田圏域連絡養成会議を開催し、迅速かつ適切な医療の確保、対象者の社会生活支援について関係機関と協議を行った。 ○H29年度の救急告示病院等を対象とした自死未遂者対応の調査結果を受け、圏域版心の相談先一覧表を作成する。 ○吉賀町の自死未遂者支援対策会議へ参加し、吉賀町における自死未遂者に対する支援の協議や情報交換を行った。
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○「隠岐圏域自死対策連絡協議会」「隠岐圏域精神科医療救急医療体制整備連絡調整会議」を開催。関係機関の連携体制の強化を図る。

(2)一般診療科との連携体制

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○一般医科と精神科との医療連携の推進を目的とした「かかりつけ医等研修会」（2月28日、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ中止） <ul style="list-style-type: none"> 講演「若者の自死予防を考える ～医師や教育関係者ができること～」 講師 筑波大学医学医療系臨床医学域 災害・地域精神医学教授 太刀川弘和氏 ○自死未遂者への対応状況を把握するため救急告示病院へ聞き取りを行った。 ○情報誌「かわら版」の発行予定 ○松江市・安来市で自死対策計画が策定されたことを受け、松江圏域自死総合対策連絡会議は一旦休会。
	<ul style="list-style-type: none"> ○一般診療科医の精神疾患対応力向上を図るととも精神科医療機関との連携強化を目的に、かかりつけ医のための精神疾患研修会を医師会と連携して開催（R1.12.6）。 ○出雲地域精神保健福祉協議会の部会に「自死総合対策に関する部会（出雲圏域自死総合対策連絡会兼ねる）、出雲市では出雲市自死対策検討委員会として位置づけ、共同で自死に関する地域の実情について総合的に協議（R1.7.12、R2.2.6予定）。 ○出雲圏域自死総合対策連絡会では、出雲圏域総合対策行動指針（H30～R3）、出雲市自死対策検討委員会では、出雲市自死対策総合計画（H31～R4）に基づき、取組を推進。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○大田圏域精神保健医療福祉連絡協議会及び大田圏域自死総合対策連絡会及び精神科救急医療体制整備圏域連絡調整会議を開催。

浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○浜田圏域自死総合対策連絡会のネットワークにより、関係機関同士の情報共有、対応確認が図れるようになった。（保健所） ○市町村担当者と、市町村自死計画の進捗状況を確認しつつ、両市と意見交換を図る中で、圏域と市との整合性を図った。（保健所） ○浜田圏域における精神科救急医療体制整備事業にかかる、外傷を負った急性精神状態の住民に対するフローチャートを年度初めに関係機関へ配布することにより、対応手順などの再確認を図った。（保健所） ○精神科病院と総合病院とはH28年度から協定が結ばれ、病病連携が整った。（保健所）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○益田日赤と松ヶ丘病院が連携し、精神科受診中の妊婦の産前、産後のフォローを行うことにより、対象妊婦の支援だけでなく、産婦人科と精神科の連携を強化している。 ○益田圏域自死総合対策連絡会を開催し、関係機関の取組を共有する中で、連携強化を図るとともに、「島根県自死総合対策計画」の評価と連絡会の今後のあり方の協議を行った。 ○鹿足郡にあぽろ心療所が開設され、圏域内の精神科医療提供体制の充実につながった。 ○第2回島根PEECコース（精神科的問題を有する身体救急患者に標準的な初期評価・初期診察を行うために必要なスキルを身につけるための教育コース）が開催され、参加及び開催支援・協力を行った。

(4) 医療観察制度

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○現在この制度に基づく支援対象者はいない。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○保護観察所や病院・市町と連携して支援等を行った
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○医療観察法対象者については個別ケース支援として、保健所としても会議等に参加し、現状の確認と今後の支援について関係機関と検討を行っている。
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○保護観察所等との連携により地域への移行に向けた働きかけ及び家族への支援を行っている。

(5) ひきこもり支援

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○ひきこもりに関する相談への対応。心体相が行う家族教室に運営スタッフとして参加し家族支援を実施した。
出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○島根県ひきこもり地域支援センターのサテライトとし、「ひきこもり家族教室」及び「家族のつどい」、出雲圏域ひきこもり支援ネットワーク会議の開催協力。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○「島根県ひきこもり支援センター」のサテライトとして相談対応を実施。 ○こころの健康相談を開催し、ひきこもりを含む相談に対応した。
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○島根県ひきこもり支援センターが配置され、圏域会議や研修会、家族教室（心と体の相談センター主催）が開催され、参加協力した。
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○「心と体の相談センター」主催の研修会に積極的に参加し、関係者の連携強化や役割の確認、情報の共有に努めている。 ○「ひきこもり相談」及び個別支援の中で、継続した支援に努めている。

救急医療

R01年度中の取組み状況(県全体)

1. 救急医療体制

- 関係機関による会議を開催し、救急医療体制の維持充実を図っている。
- 中国五県、関西広域連合及び各基地病院との協定により、ドクターへリによる広域的な医療提供体制を構築し、運用している。
- ドクターへリの適切な運用を図るため、症例検討会を開催した。
- 子ども医療電話相談事業（#8000）を中心に、各媒体による広報、イベントでの啓発資材の配布等により啓発を行った。

2. 搬送体制

- 平成31年4月現在、医師の指示の下で救急救命処置を行うことができる救急救命士が343名養成されている。
- 救急救命士による高度な救急救命処置に対応した資機材等を装備した高規格救急車が75台配備されている。
- 航空防災対策連絡会において海上保安庁、自衛隊との連携を確認した。
- 離島からの救急患者搬送について、関係者による連絡会議を開催し、連携を図った。

3. 病院前救護体制

- 気管挿管、薬剤投与可能な救急救命士については、各実習病院の協力により一定の人数を確保、あるいは増加する傾向にある。また、平成28年度から、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与の実施のための講習及び実習、認定を開始した。

気管挿管 平成31年 4月 1日 184人

薬剤投与 平成31年 4月 1日 319人

ビデオ喉頭鏡 平成31年 4月 1日 135人

心肺停止前の静脈路確保及び輸液、血糖測定並びにブドウ糖溶液の投与

平成31年 4月 1日 270人

救急医療

R01年度中の取組み状況（各圏域）

1. 救急医療体制

松江	○日立記念病院がR1.9月末で救急告示を取り下げる、安来市内には救急告示病院が安来市立病院だけになった。
浜田	○浜田市直営の休日診療所を管理運営している。（浜田市） ○休日診療所はなく、直接、済生会江津総合病院又は浜田医療センターに受診している。（江津市） ○医療機関、ドクターヘリとの密接な連携と、ドクターヘリを有効活用している。また、救急車の適正利用を普及啓発している。（消防） ○病院前救護体制を担う浜田・江津地区救急業務連絡協議会と連携し、新たな病院前救護プロトコルの作成・運用を開始した。（消防） ○「救急告示病院」として、圏域の救急医療体制の確保に努めている。（済生会江津総合病院） ○H31年度に常勤救命救急医（救急専門医）1名を採用できたことで、救急車の受け入れを断ることが大幅に減少した。また、3次救命救急センターとして体制の維持の充実を図る。（浜田医療センター）
益田	○休日救急の体制は、益田市では、H21年3月に整備された益田市休日応急診療事業において対応している。鹿足郡では、開業医の閉院、医師の高齢化、病院医師不足等により在宅当番医制をH31.3月に廃止。六日市病院と津和野共存病院が初期救急を担っている。救急体制について、益田地域病院長等連絡会議等において今後の影響等状況把握・共有が必要。 ○上手な医療機関のかかり方については、医療機関、市町、地域医療を守る住民団体等と連携し、啓発活動を実施。 ○益田赤十字病院では、「コンビニ受診」抑制のためのチラシ等を作成し、住民へ啓発を実施。

2. 撤送体制

出雲	救急医療体制の強化に向けてドクターカーが運用されており、出雲市消防本部と連係した取組が進められています。 【島大のドクターカー】 <ul style="list-style-type: none">・ドクターカーは島大が所持・出雲・大田・雲南消防と提携・外傷の内、ドクターカーの適用となる状態（事前に取り決め有り）があった場合消防から島大に通報。島大の医師、看護師、救急救命士がドクターカーで現場に着て必要な処置等行い島大に搬送する。 【県中のドクターカー】 <ul style="list-style-type: none">・ドクターカーは消防本部が所持・消防隊員が県中での研修用として配置されている。・出動要請があったときに、消防隊員と病院スタッフが乗り込み現場に向かい対応する。
----	---

3. 病院前救護体制

益田	○益田地区救急業務連絡協議会及びメディカルコントロール部会に参画し、連携体制の強化・充実を図る。
----	--

災害医療

R01年度中の取組み状況(県全体)

1. 地震、風水害等の災害時の医療救護(災害時公衆衛生活動を含む)

○県が主催する総合防災訓練にDMAT等の関係機関が参加し、災害時の運用を確認した。

○島根県災害医療関係機関連絡会議を3月に開催し、関係機関の連携を図る予定。

○災害医療コーディネーター及び災害時小児周産期リエゾンを設置し、災害時の医療体制の整備を図った。

○各病院等、関係者により、衛星電話、EMISを利用した通信連絡訓練を実施し、連携体制を確認した。

2. 災害拠点病院等の整備

○全ての災害拠点病院が業務継続計画(BCP)を策定した。

○各病院等、関係者によるEMISを利用した通信連絡訓練を実施し、連携体制を確認した。

○各病院等、関係者により、衛星電話、EMISを利用した通信連絡訓練を実施し、連携体制を確認した。

○災害拠点精神科病院を選定した。(R2.3の医療審議会で確定の見込み)

3. 広域連携の確立

○大規模地震時の医療活動を想定した政府総合防災訓練にDMATが参加し、研鑽を積んだ。

○中国地区DMAT連絡協議会実働訓練にDMATが参加し、近隣県との連携強化を図った。

○中国地区DMATロジスティックス研修会にDMATが参加し、近隣県との連携強化を図った。

4. 原子力災害時の医療救護

○原子力発電施設等緊急時安全対策交付金により原子力災害拠点病院に資器材を整備した。

○国による原子力総合防災訓練の位置づけで例年より規模を大きくして訓練を実施し、入院患者の一時避難の調整方法、原子力災害拠点病院における適切な原子力災害医療の提供等について確認した。

○島根県原子力災害医療関係機関連絡会議を開催し、関係機関の連携を図った。

災害医療

R01年度中の取組み状況（各圏域）

1. 地震、風水害等の災害時の医療救護（災害時公衆衛生活動を含む）

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○広域災害救急医療情報システム（EMIS）通信・入力 訓練への参加(5/30)…参加医療機関14病院。訓練を通し、保健所職員のEMIS入力の周知も行った ○松江・安来地域災害医療対策会議を開催予定(2月28日)
	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年1月、防災部職員等も参加した「雲南市災害時保健活動研修会」を開催（雲南市） ○防災訓練にあわせ、保健師の災害時初動マニュアル更新（飯南町）
出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○出雲地域災害医療対策会議を開催し、災害時の対応等について情報共有を行った。 (7/4) DMATについて理解するとともに、災害時の体制について検討した。各機関団体の災害時対応マニュアルに基づく対応について情報交換を行った。 ○広域災害救急医療情報システム（EMIS）の運用による情報収集を行った。（5/30）
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時初動対応所内研修（DHEAT入門編）を実施。（1/29） ○非常用電源確保事業の説明会を開催。市町担当者と災害時の体制、機器の使用方法及び運搬手順を確認。（6/11）
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○浜田保健所職員を対象に、令和元年6月6,7日の両日にICSに基づく職員招集、情報収集、報告まで一貫した初動訓練を実施した。また、令和2年1月8,9日の両日に災害時初動対応研修（DHEAT研修）を実施した。内容は、情報収集やクロノロの記載、イベントの処理等で演習が中心であった。（保健所） ○毎年、総合防災訓練を開催している。（6/16開催。ブラインド方式の訓練）（浜田市） ○国保診療所において、災害初動時のアクションカード案を作成した。（浜田市） ○医療機関協力のもと、救急隊員の再教育を強化している。また、災害拠点病院が開催する災害医療の勉強会に参加している。（消防） ○江津市医師会医療救護班を再編成した。（江津市医師会） ○令和元年7月25日に浜田市の災害時医療救護活動検討会を、令和元年7月30日に江津市の災害時医療救護活動検討会を開催し、医療救護班の活動を中心検討をした。（保健所） ○令和元年9月5日に、浜田地域災害医療対策会議を開催し、DMAT派遣までの流れや、災害時医療救護体制、各関係機関の災害時対応について話し合った。（保健所） ○令和元年5月30日に、所内でEMIS訓練と衛星電話訓練を実施した。（各医療機関との連絡）（保健所）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○益田地域災害医療対策会議を平成24年度からを毎年度開催し、災害時の連携や連絡体制整備の取り組み状況について確認している。令和2年2月開催予定。 ○人工透析実施医療機関と災害時の対応について検討会を開催。人工透析患者への支援と連携について検討した。 ○難病患者の支援体制整備の一環として、災害時の備えおよび支援体制整備を目的に、非常用電源についての講習、患者・家族対象の研修会、医療的ケアを必要とする患者の災害時個別支援に関する研修会等を実施。 ○所内で危機管理作業チームを立ち上げ、初動時のアクションカード作成すると共に、訓練を実施。 ○管内保健師間で、災害時の保健活動で活用する様式や各市町の備品等の検討を実施。 <p>圏域内DMAT：益+G234田赤十字病院に1チーム</p>

2. 災害拠点病院等の整備

雲南	○院内BCP（業務継続計画）を作成（雲南市立病院）
浜田	○済生会江津総合病院では、救急医療対策委員会が中心となり、災害研修（11/20）・訓練を実施している。 ○浜田医療センターでは、石見空港機事故消火救難総合訓練（5/26）、浜田市総合防災訓練（6/2）、中国ロック災害医療ロジスティックス研修（7/28）、島根県DMAT連絡協議会（12/2）、浜田鉄道部総合事故対応訓練（12/9）、BCP院内訓練（3/11予定）、島根県災害医療関係機関連絡会議（3/16予定）に参加している。 ○「地域災害拠点病院」として、通信環境の整備や備蓄等を行っている。また、DMATを1チーム配置している。（済生会江津総合病院） ○「地域災害拠点病院」となっている。また、DMATは2チーム配置している。（浜田医療センター）
益田	○益田圏域地域災害拠点病院：益田赤十字病院 災害協力病院：益田地域医療センター医師会病院 六日市病院 ○益田圏域の災害拠点病院である益田赤十字病院が訓練を実施（R 1.12）。圏域内の関係機関（消防、警察、益田市、保健所等が見学参加後意見交換）

地域医療（医師確保等によるべき地域医療の体制確保）

R01年度中の取組み状況（県全体）

1. 広域的な地域医療支援体制の構築

- しまね地域医療支援センターを中心に、島根大学の地域枠等や奨学金を貸与した医師のキャリア形成支援に取り組んだ。
- しまね地域医療支援センターが医療機関、市町村との情報交換会や、県医師会との共催で県内で初期臨床研修を行う研修医を対象とする合同研修会を開催するなど、関係機関と連携した取組みを推進した。
- しまね地域医療支援センターを中心に、島根大学の地域枠等や奨学金を貸与した医師のキャリア形成支援に取り組んだ。
- 島根大学医学部との各種データの共有や、定期的な意見交換会等を開催し、連携強化を図った。
- 令和2年度から4年間の医師確保対策の指針となる「医師確保計画」の策定を通じて、関係機関と医師確保並びに偏在解消の取組について検討を進めた。
- 二次医療圏単位で地域医療構想調整会議を開催し、医療機関間の機能の分担・連携について検討が進められた。
- まめネットの活用による医療機関の連携を支援した。

2. 地域医療に従事する医師の確保・養成・支援を行うための施策の推進

(1) 医師を確保する施策（現役の医師の確保）

- インターネットや医学専門誌、新聞広告をはじめ、平成30年度から取り組みを始めた学会出展などにより、情報発信や情報収集を行うとともに、県外在住医師との面談や、島根県の地域医療視察ツアーを行った。
- 赤ひげバンク登録者に対し、県内の地域医療に関する情報提供を行う機関誌「島根の地域医療」を送付した。

(2) 地域医療を担う医師の養成

- 自治医科大学卒業医師を中心とする「しまね地域医療の会」で情報交換を行った。
- しまね地域医療支援センターにおいて指導医や若手医師を対象とした研修を実施した。
- 平成30年度から開始された新専門医制度について、島根県地域医療支援会議 医師専門研修部会において検証し、専門医制度を運営する団体に対し必要な措置がとられるよう、国を通じて要望を行った。
- 専門研修プログラムの充実が図られるよう島根大学医学部卒後臨床研修センターへの支援を行った。
- 島根大学地域医療支援学講座において、医学生に地域医療の魅力を伝えるための講義や地域医療実習等を実施した。
- 中高生を対象とする地域医療の現場を知るための医療現場体験や医学部等受験希望者を対象とするセミナー等を教育委員会と連携して実施した。
- 改正医療法・医師法に基づく「キャリア形成プログラム」を策定し、キャリア形成と地域勤務の両立が図られるよう地域枠等医師の支援を行った。

(3) 地域で勤務する医師の支援

- 代診医派遣制度により、県立病院等の協力を得ながら、県内の公立医療機関への医師派遣を行った。
- 島根大学医学部地域医療支援学講座に女性医師の復職相談窓口を設置し、安心して職場復帰できるよう支援した。
- 医師の勤務環境改善につなげるため、地域医療支援センターと医療勤務環境改善支援センターが共催して、医師事務作業補助者研修会を開催した。
- 益田市、雲南市、邑南町など各地域において地域医療を守る住民の活動が取り組まれた。
- 医療勤務環境支援センターの取組として、医業経営と労務管理の専門アドバイザーと連携し、医療機関が自主的に行う勤務環境改善に向けた取組を支援。（実務者協議、医療機関向けセミナー等の開催、個別病院へのマネジメントシステム導入・定着支援等）

3. 看護職員を確保する施策の推進

(1) 確保・定着に向けた支援

- 県内就業促進対策として、看護学生への奨学金貸与や県立石見高等看護学院における地域推薦入学を実施。
- 新人看護職員研修実施病院への支援、病院内保育所運営費への支援、就業相談体制の強化など、勤務環境の改善、離職防止に向けた取り組みを実施。
- 医療勤務環境改善支援センターを運営し、勤務環境の改善に向けた研修会の開催、モデル支援病院への取組支援などを行った。

(2) 県内進学の促進

- 民間養成校への運営費補助を行うとともに、中高生のための進学ガイダンスを実施するなど、県内養成機関への進学促進の取組みを実施。
- 看護教員継続研修や実習指導者養成講習会などを行い、看護教員の資質向上支援を実施。

4. 地域医療を確保する施策の推進

(1) 地域医療拠点病院

- へき地医療拠点病院3施設（加藤病院、益田地域医療センター医師会病院、隠岐病院）の運営費を補助した。

(2) 医師ロック制の推進

- 医師ロック制について、へき地医療拠点病院3施設（公立邑智病院、隠岐病院、隠岐島前病院）で取り組まれた。

(3) 巡回診療の確保

- 巡回診療について、へき地医療拠点病院10施設（安来市立病院、松江赤十字病院、飯南病院等）で取り組まれた。

(4) へき地診療所の充実

- へき地診療所5施設（塩津（出雲市）、君谷（美郷町）、久見（隠岐の島町）、布施（隠岐の島町）、三度（西ノ島町））の運営費を補助した。

5. 診療を支援する方策

(1) ドクターへリ等の活用

- 中国五県、関西広域連合及び各基地病院との協定により、ドクターへリによる広域的な医療提供体制を構築し、運用している。
- ドクターへリの適切な運用を図るため、症例検討会を開催した。
- 離島からの救急患者搬送について、関係者による連絡会議を開催し、連携を図った。

(2) 医療情報ネットワークの活用

- まめネットへの医療機関等の参加、まめネットへの県民の参加を促進するために、普及イベント等に取り組んだ。
- へき地診療所5施設（塩津（出雲市）、君谷（美郷町）、久見（隠岐の島町）、布施（隠岐の島町）、三度（西ノ島町））の運営費を補助した。
- また、まめネットカード発行枚数は、平成31年3月時点の51,541枚から令和2年1月末時点の57,074枚へ5,533枚増加した。

(3) 電話相談システムの活用

- 各市町村において母子健康手帳に制度について記載、又は手帳の配布に併せて制度を周知している。
- 各媒体による広報、イベントでの啓発資材の配布等により啓発を行った。

6. 救急医療の充実

- 中国五県、関西広域連合及び各基地病院との協定により、ドクターへリによる広域的な医療提供体制を構築し、運用している。
- ドクターへリの適切な運用を図るため、症例検討会を開催した。
- 平成31年4月1日現在の救急救命士資格者343人。
うち、認定救急救命士は、気管挿管184人、薬剤投与319人、ビデオ喉頭鏡135人、心肺停止前の静脈路確保及び輸液、血糖測定並びにブドウ糖溶液の投与270人。

地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）

R01年度中の取組み状況（各圏域）

1. 広域的な地域医療支援体制の構築

雲南	○平成31年4月に掛合診療所と経営統合し、附属掛合診療所を開設（雲南市立病院）
浜田	○研修医の受け入れ数を増やし、研修後の医師確保について取り組んでいる。（浜田医療センター）
益田	○島根県医師確保計画及び外来医療計画の圏域計画を医療機関をはじめ関係各機関と策定 ○市町との医療行政関係者連絡会や益田地域病院長等連絡会議において、圏域全体での医師確保およびサポート体制について協議し連携した取組みを実施している。 ○津和野共存病院は、昨年度からの常勤医師の休職のため病院機能維持の危機となり、R1年度、島根県から自治医を1人派遣、島根大学から医師1人の派遣を受けている。 今年度は、六日市病院が、法人医師の退職により、病院機能存続の危機となっている。吉賀町・法人・島根県が参画する「吉賀町医療介護在り方検討会」により、六日市病院の存続・今後の方向性について検討を重ねている。 ○R1.5月津和野町が益田赤十字病院と地域医療連携協定を締結した。

2. 地域医療に従事する医師の確保・養成・支援を行うための施策の推進

（1）医師を確保する施策（現役の医師の確保）

雲南	○地域医療構想調整会議医療部会（9月、11月）において、「医師確保計画」策定のための協議を実施（雲南保健所） ○平成31年4月より、総合診療プログラム専攻医（1名）が着任（雲南市立病院）
益田	○益田市医師会では、「親父の背中プログラム」として、県外の地域医療に关心の高い医師を受け入れ、医師会病院・会員（診療所）にて研修を実施。 H30年度：医師2名受け入れ。 R1年度：医師1名受け入れ。R2年度は1名の受け入れ予定。

（2）地域医療を担う医師の養成

松江	○8月（3月も予定）に島根大学医学部学生2名を地域医療実習として受け入れ、へき地診療所等で地域医療の体験をしてもらった。
出雲	○地域医療支援学講座（4名）や地域医療実習（夏季と春季に実施、各3名で計6名）では、医学生が病院、診療所、訪問看護ステーション、社会福祉施設、保健所等で実習をする中で地域医療の実態や連携について学ぶ機会を持った。 ○医師卒後初期臨床研修を7月・9月・11月の3ヶ月間実施し、5人の初期臨床医に対し、地域保健・医療に関する研修を実施した。
大田	○圏域の地域医療を支える中核病院の特性を学びながら様々な実習（外来・病棟・夜間救急外来・訪問診療等）を盛り込み、さらに義肢・装具・医療器具製作現場（中村ブレイス）見学等の圏域特性を活かした実習プログラムを3月と8月に行っている。

浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○医療連携・保健福祉との連携等について学習してもらうため、医学生（1～6年生）を対象に、8月と3月の2回各3日間、地域医療実習を実施した。実習機関は、浜田医療センター、済生会江津総合病院、西部島根医療センター、浜田市国保診療所。 【実績】平成元年8月20～22日 島根大学5名の参加。（保健所） ○地域枠の医師と出雲で交流会を開催した。（江津市） ○医療に関する講演会を江津市の石見智翠館高校（令和元年7月4日）と江津高等学校（令和元年7月12日）の生徒を対象に開催し、医療職についての知識を深めてもらった。済生会江津総合病院の医療職（看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士、管理栄養士）に講師になってもらい、各学校で講演してもらった後、職種別に講師と生徒で情報交換した。 【実績】智翠館生徒15人参加、江津高等学校生徒30人参加。（保健所） ○市内小中学校で地域医療教育を実施している。国民健康保険診療所では、小中学校見学受け入れや、中高生の医療体験実習を実施した。中高生が現役の医師や看護師、医学生・看護学生等と交流ができるよう「医療系学生と話そう」を実施した。医学部や医師国家試験合格者に対して、合格を祝う会を実施した。地域枠学生や地元出身学生に対して、浜田市の医療の現状を発信した。国保診療所においては、島根大学や鳥取大学から地域医療実習を受け入れた。また、総合医育成のために、浜田医療センターと「総合診療研修プログラム」及び学会認定の「家庭医療専門研修プログラム」を作成した。（浜田市） ○地域医療教育推進事業（各小中学校で医療従事者の講演会、病院見学、図書購入）の推進（今年度6校）。（江津市） ○小中学校へ進路学習講演会を実施した。（訪問看護）
	<ul style="list-style-type: none"> ○津和野共存病院へR1年度初めて自治医科大学卒業の医師及び島根大学からの医師が派遣されている。中山間地の地域医療の関係機関が連携し、地元出身の医療従事者の確保のため、地域枠推薦学生を積極的に支援している。 ○市町ごと、あるいは圏域合同で、管内市町出身の医学生を対象として意見交換会を開催。 ○保健所では、益田圏域の地域医療について医学生に关心を持ってもらう機会とするため、春と秋の地域医療実習を管内医療機関と協力し受け入れている。 ○中・高校生の医療現場体験実習を医療機関、市町、教育委員会と連携して実施 ○市町では、地域医療教育推進事業として、小中学校での地域医療をテーマとして取組みを実施している。

（3）地域で勤務する医師の支援

浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○江津市で勤務する医師や看護師への支援については、済生会江津総合病院や西部島根医療福祉センターの医師・看護師対象の研修会への補助をしている。（江津市）
	<ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度、28年度に、益田赤十字病院と益田地域医療センター医師会病院・津和野共存病院・六日市病院がそれぞれ2医療機関間で、「連携協定」を締結し、患者紹介、診療の相互協力・支援、研修、人材育成等の医療連携を進めている。 ○津和野町と益田赤十字病院がR1.5月地域医療連携協定を締結。人材確保等の取組を進めている。 ○日原診療所が代診医派遣制度を活用している ○市町との医療行政関係者連絡会や益田地域病院長等連絡会議において、圏域全体での医師確保およびサポート体制について協議し連携した取組みを実施している。 ○「益田の医療を守る市民の会」「津和野町の医療を守り支援する会」活動の支援を行い、医療機関の適正受診等の啓発活動を支援している。 ○軽症者の救急利用に対し、コンビニ受診の抑制のためのパンフレットを益田赤十字病院が作成・配布している。関係機関も協力して配布している。

3. 看護職員を確保する施策の推進

（1）確保・定着に向けた支援

益田	<ul style="list-style-type: none"> ○市町と医療行政関係者連絡会において、看護師確保対策や現状と課題について、情報共有をしている。 ○地元出身の医療従事者の確保のため、地域枠推薦学生を積極的に支援している。

4. 地域医療を確保する施策の推進

(1) 地域医療拠点病院

松江	<ul style="list-style-type: none">○圏域内3病院（松江赤十字病院、安来市立病院、安来第一病院）が地域医療拠点病院の指定を受けているが、新たに2病院が指定を受け、へき地に医師やコメディカル等を派遣する予定になっている○医師確保計画のなかで、へき地等の医師確保が困難な地域として医師少数スポットを設定した
出雲	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none">○へき地診療所3か所、半島振興法指定地域にある公立診療所2か所については、地域医療拠点病院（島根大学医学部附属病院・出雲市立総合医療センター）・出雲医師会の協力で診療を確保している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">○へき地診療所に出雲医師会から派遣されている医師が高齢化しており、体制の維持が課題である。また、患者が減少しており、回数の検討も考えられている○冬期（インフルエンザ流行期）の休日診療所の受診者が多く課題となった。出雲市において対応が検討されている。
浜田	<ul style="list-style-type: none">○「地域医療拠点病院」として、地域の医療提供体制を支えると共に、開業医との連携を強化している。また、地域医療連携推進法人の設立により、法人内で定期的に意見交換を行う等、さらに開業医との連携が進んでいる。（済生会江津総合病院）
益田	<ul style="list-style-type: none">○益田圏域では、益田地域医療センター医師会病院、益田赤十字病院、六日市病院が地域医療拠点病院である。○日原診療所が代診医派遣制度を活用している

(3) 巡回診療の確保

雲南	<ul style="list-style-type: none">○令和元年8月に管理者が逝去した田井診療所について、雲南市立病院による巡回診療を実施することにより地域医療を確保（雲南市）
益田	<ul style="list-style-type: none">○益田地域医療センター医師会病院では、益田市内の無医地区等5か所の巡回診療の取組を実施。○益田市の小野地区において、地域の医療の在り方が検討されており、益田市とともに支援している。

(4) 働地診療所の充実

浜田	<ul style="list-style-type: none">○本年度から江津市内の国民健康保険診療所に、週に1回医師を派遣することになった。（済生会江津総合病院）
----	---

5. 診療を支援する方策

(1) ドクターヘリ等の活用

益田	<ul style="list-style-type: none">○ドクターヘリ運航要領の六日市病院の地域ルールについて見直しを行った。
----	---

(2) 医療情報ネットワークの活用

大田	<ul style="list-style-type: none">○医療介護連携ITシステム構築支援事業によるまめネットの居宅支援事業所等への導入。 R2.3
浜田	<ul style="list-style-type: none">○まめネットの活用（訪問看護）
益田	<ul style="list-style-type: none">○益田市医師会が実施している圏域課題解決事業の医療行政実務者会において、まめネットについて説明を受け、圏域での活用について意見交換を実施。

(3) 電話相談システムの活用

益田	○市町を通じ、「#8000のカード」を配布。 ○益田市と津和野町では、24時間体制の健康ダイヤルにて電話相談を実施。
----	---

6. 救急医療の充実

益田	○益田地区救急業務連絡協議会及びメディカルコントロール部会に参画し、連携体制の強化・充実を図る。
----	--

周産期医療

R01年度中の取組み状況（県全体）

1. 周産期医療ネットワーク

- 総合周産期母子医療センター主催で、令和元年8月28日「周産期医療ネットワーク連絡会」の開催
- 令和元年12月19日周産期医療協議会を開催し、周産期医療提供体制の方向性や母体・新生児搬送マニュアルの改定、妊娠婦の切れ目ない支援、メンタルヘルス支援について協議

2. 中核となる医療機関と地域周産期医療関連施設における機能分担と連携の推進

- 総合周産期母子医療センター主催で、令和元年8月28日「周産期医療ネットワーク連絡会」の開催
- H30.4月から連絡票の一部を改正するとともに、母体・新生児搬送マニュアルを策定し、H31.2月から運用を開始した
- 周産期医療に係る検討会として、各圏域の実情に応じて、体制検討会、看護連絡会、事例検討会などを開催

3. 医療従事者の確保

- 研修資金の貸与制度により産婦人科医、小児科医の養成確保を図った。
- 産科及び小児科に係る圏域毎の配置医師数や医療提供体制について島根大学医学部等と検討を進め、産科及び小児科の医師確保計画を策定した。
- 病院・養成所において「中学生・高校生の一日看護学生・看護体験（助産師体験含む）」事業を実施。
- 島根「ふるさと」看護奨学金（助産師枠）により新卒助産師の県内就業を促進した。
- 「助産師出向支援事業」で助産師が施設間交流することにより、助産実践能力向上が図られた。（R1年度 3名参加）

4. 医師と助産師間の連携

- 毎年度6月に分娩取扱い施設に対して医療提供体制の状況や関連事業の取組の意向調査を実施
- 院内助産システムについて新たな方針を持つ施設はないが、周産期医療提供体制が維持されるよう、引き続き各機関と連携強化を図り、必要な支援を実施する
- 関係団体が主催する、学会や研修会等に参画

5. 搬送体制の強化

- 令和元年12月19日周産期医療協議会を開催し、母体・新生児搬送マニュアルについて、運用状況等を踏まえた意見交換を行い、令和2年2月にマニュアルを改定した。

6. 妊産婦の健康管理の充実

○市町村では子育て世代包括支援センターの設置が進み、19市町村中13市町村で設置され、令和2年度中には全市町村で設置される見込み。

○令和元年12月19日周産期医療協議会を開催し、妊娠婦の切れ目ない支援、メンタルヘルス支援について協議

○各圏域で市町村母子保健担当者の連絡会等を開催し、課題の抽出を行い、産科と精神科の連携について、事例検討や事例から見える課題の共有などを進めている。

7. 地域住民への啓発

○市町村の母子保健担当課と連携して対応。

○令和2年3月開催（書面審議）の社会福祉審議会母子保健部会において、労働局委員からの情報提供あり。

8. 重症児等の支援

○令和元年12月11日開催の慢性疾病児童等地域支援協議会・医療的ケア児支援連絡協議会において、在宅療養児・家族向けの情報ハンドブック骨子等を協議し、意見等を踏まえ、令和2年度中に策定する予定。

9. 災害時の体制

○令和元年6月、県の災害医療体制に、小児・周産期医療に特化した調整役として災害医療コーディネーターのサポートを行う災害時小児周産期リエゾンを設置した。

10. 小児救急を含む小児医療

○乳幼児の事故予防の啓発について、出雲圏域を中心に取り組んでいる。

○研修資金の貸与制度により産婦人科医、小児科医の養成確保を図った。

周産期医療

R01年度中の取組み状況（各圏域）

1. 周産期医療ネットワーク

松江	○松江圏域周産期医療連絡協議会において、母体搬送及び新生児搬送や搬送体制に関する医療機関同士の連携強化を図るため、情報共有を行っている。 ○松江圏域周産期医療連絡協議会では、災害時小児・周産期リエゾンをテーマに研修会を行い、災害時における各医療機関及び行政の対応や連携について検討を行った。
浜田	○浜田圏域では、セミオープンシステム（診療所1カ所、分娩2カ所）を運用し、市の窓口での紹介・パンフレットの配布により周知を図っている。（医療機関・行政）
隱岐	○「隱岐圏域母子保健推進協議会」の中で周産期医療及び妊産婦支援の現状と課題の共有、今後の支援のあり方について協議を行う。

2. 中核となる医療機関と地域周産期医療連携施設における機能分担と連携の推進

松江	○松江圏域周産期医療連絡協議会看護連絡会の開催に合わせ、産科医療機関と行政の情報を集約した「かるがもファイル」を更新し、取組状況を共有した。
雲南	○周産期医療体制の充実を図ったことで、分娩件数が増加傾向（平成29年度：39件、平成30年度：69件、平成31年度：80件目標）にある（雲南省立病院）
出雲	○出雲圏域周産期医療体制検討会、出雲圏域周産期看護連絡会を開催。 ○出雲圏域の低出生体重児の出生割合は減少傾向にあるものの、全県より高い割合で推移しているため、妊婦の食生活アンケート調査をH30年度に実施した。 ○R1[年度は、圏域会議で結果を分析し、保健指導に活かすため健康教育用リーフレットを作成することとしている。
浜田	○「浜田圏域周産期医療連携体制検討会」については未実施。（保健所）
益田	○地域周産期母子医療センターである益田赤十字病院において、出雲部の医療機関と連携して周産期医療の提供が行われている ○搬送時の情報提供書（母体・新生児各搬送連絡票）を県内で統一し、迅速な情報共有が可能になっている。 ○益田赤十字病院と津和野共存病院でセミオープンシステムを取っており、鹿足郡に住む妊婦や鹿足郡で就職している妊婦が身近な医療機関で妊婦健診を受けられるようになっている。 ○特定妊婦等、支援が必要なケースについては、市町の要対協が中心となり支援会議が開催されており、参加している。

3. 医療従事者の確保

浜田	○島根大学病院への産婦人科、小児科医師の派遣要請。（江津市） ○産婦人科医師（常勤）2名体制。小児科医師が不在のため、大学からの派遣で外来診療を実施している。（済生会江津総合病院） ○年々出産数は減少しているが、十分な数の出産に対応できるよう医師確保に取り組んでいる。（浜田医療センター）
益田	○島根県医師確保計画において圏域計画を策定。益田圏域は、産科医が相対的医師少数区域である。

4. 医師と助産師間の連携

浜田	○浜田医療センターと済生会江津総合病院では、助産師外来を開設している。
益田	○益田赤十字病院で、院内助産に取り組まれている。

5. 搬送体制の強化

益田	○益田赤十字病院に配置されている周産期ドクターカー、ドクターヘリにより搬送が行われている。
----	---

6. 妊産婦の健康管理の充実

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○松江圏域周産期医療連絡協議会看護連絡会では、妊産婦の状態を確認する質問票について、各医療機関での活用状況や課題を確認した。 ○松江圏域周産期医療連絡協議会看護連絡会では、「メンタルヘルスに問題のある妊産婦への支援」をテーマに産科精神科連携について検討を行った。 ○松江圏域周産期医療連絡協議会では、今後、産科医療機関と行政の連携を図るため、県内の産後ケア事業の実施状況及び圏域の状況について情報提供を行った。
出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○妊産婦への保健指導について、行政等地域と医療機関が連携した取組ができるよう、周産期看護連絡会、周産期医療検討会を開催し、情報共有や課題について検討している。 ○出雲市では、母子包括支援センター「きずな」において、切れ目ない支援の充実に努めている。産後ケア事業について、R1年度より実施している。 ○保健所では、医療機関や地域の助産師を中心とした、周産期看護連絡会を開催し、妊産婦への連携した支援ができるよう支援している。 ○市と医療機関では質問票やアセスメント票を活用している。 ○R1年度より、医大・県中HPにおいて精神科医師、市を含めた多職種連携による合同カンファレンスが開催されている。 ○出雲圏域周産期医療体制検討会、周産期看護連絡会において、妊産婦のメンタルヘルスについて継続して検討し、産科、精神科、小児科連携を進めている。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○管内全市町で子育て支援包括支援センターが設置された。 ○圏域の「フォローが必要な妊産婦等保健指導連絡事業」により、妊娠期から医療機関と行政が連携を図り、妊産婦等へ支援されている。 ○管内では3市町（大田市、美郷町29年度～、邑南町）で妊婦歯科健診を実施。 ○妊婦健診で精密検査（糖尿病）が必要な者には、精密検査の受診券を受け取りに行政の窓口に行った際に、保健指導を受ける体制ができている。 ○管内全市町で子育て支援包括支援センターが設置され、妊娠期から切れ目のない支援が提供されている。 ○管内全市町で産後ケア事業が実施されている。
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○精神科と産科の連携を図るため、石見地区妊産婦メンタルヘルス研究会を2回、ミニカンファレンスを1回企画した。（保健所） ○メンタルヘルス対策、虐待予防対策をより充実させるため、今年度より両市ともに産婦健診が開始となった。（浜田市・江津市）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回益田赤十字病院主催の看護連絡会にて、行政と医療の連携を図っている。 ○関係機関で情報を共有するための情報誌「すくすく」を作成し、毎年更新している。 ○全市町で14回の妊婦健診が公費負担対象となっている。また、津和野町、吉賀町は、妊婦の通院交通費16回分を全額助成している。 ○益田赤十字病院では妊婦・褥婦全員にEPDSを実施しており、気になるケースについては病院のMSWを通して速やかに市町につないでいる。 ○3市町で子育て世代包括支援センターが開所され、産前から切れ目のない支援を実施している。 ○産後デイケアは3市町、産婦健診（津和野町・吉賀町）、子育てヘルパーや産前産後サポート事業（吉賀町）などの事業を展開し、出産後も切れ目のない支援が受けられる体制が整えられつつある。 ○吉賀町では、助産院が今年度開院された。 ○H30年度から松ヶ丘病院や行政とハイリスク妊婦会議を開催して連携を図っている
隠岐	<ul style="list-style-type: none"> ○「隠岐圏域母子保健推進協議会」の中で妊産婦支援の現状と課題の共有、さらには各町村での具体的取り組みの検討に向けた働きかけを行う。 ○妊娠届出時の面接、アンケートやEPDS等により、関係機関との連携の元要支援の妊産婦への支援の継続を行っている。 ○島前地区においては、安全・安心な出産をするために、「妊娠36週までに島前病院で検診を受ける」「36週以降には島外で待機する」ことを徹底し周知されている。

7. 地域住民への啓発

出雲	○R1年度より、出雲市の産後ケア事業が開始され、産後4ヶ月以内の産婦に対し、助産師が家庭訪問し、子育てへの相談対応が開始された。
浜田	○浜田圏域働く人の健康づくり情報ファイルに働く女性の支援に関する情報を掲載し、地域社会や事業所での理解の促進を図っている。（保健所）

8. 重症児等の支援

松江	○医療的ケア児について、家族及び支援機関で共通認識を図りながら支援を行っている（保育所入所に関する支援、災害支援マニュアルの作成等） ○長期療養児の家族交流会等の活動を支援し、圏域内外からより多くの参加につながるよう行政を通じた情報提供を行っている
出雲	○医療依存度の高い在宅療養児生活支援検討会を開催し、医療機関と地域の保健・福祉との連携及び支援体制の構築について検討している。 ○今年度は災害時の支援体制について検討することとしている。
大田	○関係機関と連携した支援を実施
浜田	○在宅療養児への支援を図るため、医療機関からの情報提供に基づき関係機関と連携体制を組み、個別ケースへの支援を実施。（在宅療養支援ファイルの有効活用） ○両市と保健所で圏域内の在宅療養中の医療的ケア必要児への支援体制について検討した。今後も引き続き検討していく必要がある。（保健所）
益田	○医療的ケアが必要であったり、退院後も支援が必要な場合は病院から保健所に情報提供があり、退院前若しくは退院直後から訪問等により支援をしている ○医療機関や市町と支援会議を重ね、連携を取りながら支援体制づくりをしている

9. 災害時の体制

大田	○医療的ケア必要児の災害時を想定した対応マニュアルの更新及びに新規者のマニュアルを作成した。
----	--

小児救急を含む小児医療

R01年度中の取組み状況（各圏域）

雲南	○平成31年4月、小児神経専門医が着任（雲南省立病院）
----	-----------------------------

在宅医療

R01年度中の取組み状況(県全体)

1. 退院支援

- 標準的な入退院調整ルールを示した「島根県入退院連携ガイドライン」を更新、各圏域における検討の場づくりやルール作成を促進した。
- 入退院時における病院と居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションとの情報共有に関する調査を実施し、課題の把握と関係機関の連携を推進した。
- 医療的ケアが提供できる介護職員や指導を担う看護師を養成する研修を関係機関への委託等により実施した。
 - 介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修
 - …研修修了者 41名（予定）
 - 介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修（指導者講習）
 - …研修修了者 44名
- 関係機関等との意見交換を行い、体制の整備を推進した。
- 病院祭りや普及イベントでの普及活動により、「まめネット在宅ケア支援サービス」の利用施設数は、平成31年3月末時点の304施設から令和2年1月末時点の312施設へ8施設増加した。

2. 日常の療養支援

- 医療・介護・保健情報総合分析システム「EMITAS-G」を活用し、在宅医療・介護連携に資するデータを関係者へ提供した。
- 「島根県訪問看護支援検討会」等により各関係団体とともに、訪問看護の推進に向けた具体策の検討を行っている。
- 「島根県訪問看護ステーション出向研修事業」を実施し、訪問看護が担える人材の養成、地域の看護連携強化に向けた取り組みを推進。（令和元年度事業参画医療機関：4か所）
- 療養病床から介護医療院への転換について、医療機関からの相談対応、関係介護保険者との調整、基金等の財源を活用した転換支援等を実施
- 認知症疾患医療センターの指定、認知症サポート医の養成を進め、かかりつけ医等を含めた地域における在宅医療の提供体制構築を支援
- 県内関係機関が参加する「慢性疾病児童等地域協議会・医療的ケア児支援連絡協議会」を開催し、取組状況の共有及びハンドブック作成に関する協議を行った。
- 中山間地における訪問診療の運営費補助について、5市町（6病院、37診療所）を支援した。
- 中山間地における訪問看護の運営費補助について、8市町（31事業所）を支援した。
- 住民の理解を促進するための事業について、1町を支援した。
- 新卒等訪問看護師育成事業を実施し、新人看護師の体系的な教育システムを検討、構築している。（H30:2名 R1:1名）
- 県内で特定行為研修の指定研修機関はR1年度 3施設
県内の研修終了者はR1.10月現在21名
- 制度の推進を図るため、シンポジウムや県内東部、西部2か所でのセミナー、研修修了者在籍看護管理者の意見交換等を開催。

- 研修の受講促進を図るため、看護師派遣に必要な経費を助成。

5. 在宅における連携体制の構築

- 在宅医療・介護連携推進事業の進捗状況調査の結果をまとめ、市町村へ情報提供した。
- 各市町村における医療介護関係者向け相談窓口である在宅医療・介護連携支援センターの紹介リーフレットを作成し、センターの周知と連携支援を実施した。
- 市町村、保健所等を対象とした担当者会議を開催。在宅医療・介護連携支援センターや医師会に配置した医療連携推進コーディネーターの取り組みを紹介し、多職種連携を推進した。
- 在宅医療・介護連携に係る啓発用DVDを制作し、市町村、病院等に配布した。

在宅医療

R01年度中の取組み状況（各圏域）

1. 退院支援

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○松江市在宅医療・介護連携支援センターが主催となり、市内病院、松江市、保健所との情報共有等の場は継続して実施している。(年3回) ○圏域内の登録研修機関、松江市立病院、松江市関係課と連携して独自に喀痰吸引等3号基本研修を開催した。 ○松江市在宅医療・介護連携支援センターが主となり、松江市版入退院連携ガイドラインが作成された。作成までの経過では病院、訪問看護、ケアマネの現状と課題を整理され、ガイドラインに反映されている。
	<ul style="list-style-type: none"> ○「雲南圏域における入退院連携マニュアル」を運用中。各市町で研修会を開催する等、課題解決に向けた取り組みを進めた。 ○まめネットを活用した特別養護老人ホームとの連携（雲南省立病院）（再掲）
	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○退院前カンファレンス等により、連携をとりながら在宅への移行がスムーズに行えるよう、地域連携部署を中心に取り組まれている。 ○出雲市在宅医療・介護連携推進のための事例検討会が定期的に開催され、退院支援にむけた連携のあり方が検討されている。 ○入退院時における病院と在宅サービス事業所間の情報共有に関するフォローアップ調査（県実施）結果の情報提供を各団体に行い（出雲地域訪問看護ステーション支部（2/13）、病病連携会議（2/13）、介護支援専門員協会（3/4））、関係機関で退院支援における連携を充実させる取り組みを支援していく。 ○訪問看護入院時情報提供書の様式を統一した。まめネットを活用した情報提供についても、実施機関を拡大していくよう働きかけている。 ○介護職員の喀痰吸引について、施設での再講習について状況把握を行った。 ○再講習を希望する施設への支援について、実施可能な方法を関係機関と協議が必要。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自宅等への退院が困難な人が地域包括ケア病棟や老人保健施設にとどまる傾向に有り、対策の検討が必要である。 ○入退院連携ガイドライン（県作成）を活用した出雲圏域のルール作りが必要である。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域4病院病棟看護部長との意見交換をふまえ、大田圏域入退院連携検討委員会を開催予定。 ○「まめネット在宅ケア支援サービス」の導入について圏域内にて説明会及び研修会を実施予定。
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○浜田市入退院支援マニュアルを周知・活用をしている。（浜田市） ○退院調整看護師養成研修会における実習を受け入れている。（訪問看護） ○H30に浜田市が作成した「入退院支援マニュアル」を圏域版に拡大して活用できるよう検討中。R2年度当初完成を目指す。（保健所） ○喀痰吸引、経管栄養研修用シミュレーターの貸出により、施設介護職員の研修支援。実績：今まで9回（保健所）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○保健医療対策会議、医療・介護連携部会、益田地域病院長等連絡会議を中心に、地域医療構想に基づく圏域病床機能について検討を進めている。 ○慢性期療養が圏域内で療養完結できない理由の一つに医療的ケアを提供できる体制が不十分であることが考えられ、喀痰吸引等必要な患者の受け入れ体制について状況把握を継続実施。 ○益田市医師会実施の基金事業「圏域課題解決推進事業」において、介護職対象の技術向上研修や特定行為ができる看護師が介護施設の看護師対象とした看護技術等の研修会を実施 ○入退院連携ワーキングにおいて、入退院時の連携の現状課題について情報共有・検討をし、圏域の多職種研修会を企画実施している。 ○益田圏域医療介護連携推進のための多職種研修会を「地域における意思決定支援について」をテーマに実施 ○益田圏域は、まめネットの普及率は低い状況は継続。 医療行政実務者連絡会において、まめネットの「在宅ケア支援サービス」を含めたサービス内容について情報共有をする機会を設け、活用を検討する病院がでてきている

2. 日常の療養支援

松江	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域歯科診療所情報の活用について、訪問看護ステーション、ケアマネ協会等説明 ・新たに開設された歯科診療所には1月調査実施予定 ・3年ごとに更新することで両市歯科医師会長と確認した ○島根県老人福祉施設協議会ヘルパー部会松江支部の役員に訪問介護の現状を聞き、介護員が研修を受講してもらえる条件などの情報収集を行った。 ○松江市では、松江市医師会、市内の病院、訪問看護、福祉施設、公民館代表等を構成員としてACP普及・啓発推進協議会が10月に立ち上がり、市民講座を11月30日に開催した。
雲南	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ケア科の医師増員（2名→3名）（雲南省立病院） ○町が事業主体である訪問看護事業に病院の看護師（3名）を配置（町立奥出雲病院） ○在宅における栄養指導を実施（町立奥出雲病院） ○年数回、在宅医療意見交換会を開催し、薬剤師、ケアマネ等と意見交換を実施（雲南医師会） ○「薬局等における在宅業務の一層の推進・充実に係る研修会」の開催（島根県薬剤師会雲南支部） ○医療的ケア児の在宅療養生活支援研修会を実施し、関係機関職員のスキルアップ及び顔の見える関係づくりを行った。
出雲	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○低栄養改善・食支援対策検討会を開催し、課題解決に向けて取り組んだ。 ○低栄養食支援専門職派遣試行事業を実施し、前期5事例、後期2事例（R2年1月末現在）の利用があった。結果については研修会で検討会や研修会で報告し、アセスメントのための専門職派遣の必要性について確認した。結果、次年度からは出雲市において実施されることになった。 ○医療・介護連携専門部会を中心に検討を進めている。老健の実態調査結果より、病院と老健の連携の必要性を確認した。出雲市医療介護連携課において具体的な取り組みの検討が進んでいる。 ○圏域の医療的ケア児等の支援に携わる保健・医療・福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための「出雲圏域医療依存度の高い在宅療養児の生活支援検討会」を開催し、協議の場を設置している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○供給量の把握はできるが需要の把握（見通しも含めて）が困難で有り、具体的な議論を進めることが難しい。 ○在宅療養については医療のみならず、介護力の低下（家族、事業所）が著しく、課題が大きい。 ○医療区分1の人の受け皿について把握が不十分である。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○大田食支援研究会が主催する（口腔ケア等）研修会の企画運営支援（10/5） ○邑南町役場、邑智郡医師会、町内訪看ステーションとの意見交換会をコーディネイト（1/21）
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○島根県歯科医師会西部会館事業部との連携により、ケアマネジャーや施設管理者への口腔機能マネジメントの重要性の研修、歯科衛生士対象に肺炎予防のための口腔ケアの実技を含む研修を実施。（保健所） ○国民健康保険診療所にいおいて、へき地の在宅医療を提供している。（浜田市・江津市） ○浜田市訪問看護ステーション支援事業補助金活用による条件不利地域へ、訪問看護を提供している。（訪問看護） ○県で実施している訪問看護ステーションに対する様々な補助や支援事業について情報提供了。（保健所） ○医療的ケア児等コーディネーター養成研修に講師派遣している。（訪問看護） ○浜田圏域の退院後の療養先が県外に流出している現状や、入退院支援、看取り、日常の療養支援における課題などについて現場レベルのワーキングにおいて検討し、医療介護連携部会に報告した。（保健所）

益田	<ul style="list-style-type: none"> ○当圏域では、「益田圏域生活療養ノート」を退院時必要な方に作成し、退院後も継続したリハビリテーションができるよう作成している。 ○病院と施設間で栄養情報が適切に交換できるように、退院時に活用する「益田版栄養情報提供書」が作成され活用している。 ○津和野町・吉賀町は、医療介護総合確保基金市町村支援事業の「訪問看護支援事業」を中山間地における訪問看護師の運営面の補助として活用している。 ○訪問看護ステーション協会益田支部会を開催し、定例的に実施をされるようになった。 ○訪問看護ステーション益田支部共通の「益田圏域版」情報提供書を作成し、病院との連携に活用を始められた。 ○益田地域医療センター医師会病院は、特定行為研修を終了した看護師を育成し、現在5人の特定看護師が誕生している。現在は病棟での活動が主であるが、退院後訪問の実施等、在宅支援の取組も少しづつ対応している。 ○益田医師会が実施する医療介護総合確保基金「圏域課題解決推進事業」において、特定行為看護師の実践環境の整備と実践指導・研修を実施されている。 ○今年度は、施設（グループホーム）職員向けに、夜間・休日の利用者が急変したときのアセスメントについて、特定行為ができる看護師が講師となり研修会を開催した。 ○保健医療対策会議・医療介護連携部会・益田地域病院長等会議において医療、療養の二々に応じた、提供体制について検討している。 ○緩和ケア事例検討会を実施 　益田赤十字病院緩和ケアアドバイザー連絡会と共に。病院と地域の看護職の連携強化をし、入院から在宅まで切れ目ない緩和ケアを提供することを目的に実施している。 ○医療的ケアが必要であったり、退院後も支援が必要な場合は医療機関や市町と支援会議を重ね、連携を取りながら支援体制づくりをしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ○隠岐圏域地域包括ケアシステム推進委員会で、人材確保・人材育成・介護予防の充実等について検討。特に人材育成については、現状、資格取得や更新に必須となっている研修を本土に渡らなければ受講できないことが人材育成の進まない要因の一つとなっており、この要因を隠岐圏域として自ら解消するため、島内で研修が受けられる体制整備を目指し研修講師自体を養成する取組を開始した。

3. 急変時の対応

雲南	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅医療養後方支援病院として、診療所医師の負担軽減に努めており、平成31年3月末時点の登録患者236名（雲南市立病院） ○地域包括ケア病床の増床（8床→10床）（飯南病院）
	<ul style="list-style-type: none"> ○診療所間や済生会江津総合病院、訪問看護ステーションとの連携強化のための意見交換会を実施。（江津市医師会）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○島根県入退院連携フォローアップ調査を実施し、益田圏域内の居宅介護事業所・訪問看護ステーションと各病院の入退院時の連絡について確認している。入退院の連携にはまだ課題がある。 ○課内5病院に入退院連携等についてヒヤリングを行い、市町医療介護連携担当者会等で意見交換実施。

4. 看取り

雲南	<ul style="list-style-type: none"> ○「看取りに関する手引き（平成30年9月作成）」を運用（平成記念病院） ○「看取りのしおり（平成30年度作成）」の活用（雲南市社会福祉協議会）
	<ul style="list-style-type: none"> ○人生の最終段階での連携促進に向けて、ACPについて関係者の勉強会を開催。（浜田市） ○市民向けの啓発媒体を作成。（江津市）
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○人生の最終段階での連携促進に向けて、ACPについて関係者の勉強会を開催。（浜田市） ○市民向けの啓発媒体を作成。（江津市）

益田	<ul style="list-style-type: none"> ○各市町の地域支援事業の取組の一環として、ACPについての普及啓発の取組が進んできている。 ○益田圏域医療介護連携推進のための多職種研修会において「地域における意思決定支援」について関係者を対象に研修会実施。 ○基金事業「医療介護連携推進コーディネーター事業」（益田市医師会）において「看取りの事例検討会」を定期開催。
----	---

5. 在宅における連携体制の構築

出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○出雲市では出雲圏域在宅医療連携推進連絡会が年2回開催され、関係機関と課題の共有化と解決に向けた取組の検討を進めている。保健所は企画の段階から参画し連携して取組を進めている。 ○出雲市は在宅医療介護連携推進のための事例検討会を年2回、在宅医療介護を推進するための研修会及び意見交換会を開催している。また出雲医師会は年6回在宅医療懇話会を参加しており、顔の見える関係づくりに取り組んでいる。それらに保健所も参加し連携して取り組みを進めている。 ○出雲市が開催する地域ケア個別会議に参加し、自立に向けた支援や地域課題抽出のための検討について支援している。 医療・介護連携専門部会を開催し、医療機能分担や連携の在り方について検討を深めた。
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○地域共生社会を考える【ごちゃまぜで挑むまちづくり】の講演会等を実施 (2/6)
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○江津市医師会在宅連携推進コーディネーター事業を実施し、市内の訪問診療提供体制の維持・拡大等に取り組んでいる。（江津市医師会） ○医療介護連携に係わる検討の場を設置。（浜田市・江津市） ○多職種勉強会を定期的に実施している。浜田市は、医療・介護連携シートを活用している。 ○江津市から「在宅医療・介護連携支援センター」を受託し、関係機関からの相談等に対応している。（済生会江津総合病院） ○入院支援センターを拡充し、専任看護師長を配置した。スムーズな退院支援もできるので、在宅医療にも移行しやすくなっている。（浜田医療センター） ○社会資源を把握し、現在検討中の圏域版入退院支援マニュアルに掲載予定。（浜田市・江津市） ○地域包括口腔ケア会議を開催した。（歯科医師会）

その他（医療連携体制の構築、医療に関する情報提供の推進）

R01年度中の取組み状況（県全体）

- 「診療情報の提供等に関する指針」に基づく医療機関の情報提供を推進するとともに、インフォームド・コンセントや個人情報保護など医療従事者の役割や責任を啓発する研修会を開催している。
- 「島根県医療機能情報システム」の情報を年に1度最新のものに更新して提供している。
- 「島根県医療機能情報システム」の情報に変更があった場合は随時医療機関において修正を行うよう、立入検査時に指導している。
- 広告に関する問い合わせ等があった場合は、関係機関と連携して適切な指導に努めている。
- 医療機能の分化・連携に向けた病床転換等について、施設設備整備費を補助することにより2病院（大田市立病院、益田地域医療センター医師会病院）を支援した。
- 圏域の課題解決を推進することを目的とした提案公募型の事業に取り組む3者（松江：吉川歯科クリニック、大田：仁寿会、益田：益田市医師会）の事業費を補助した。
- 「まめネット」の医療機関等への普及、県民の参加促進のために、病院祭りや普及イベントでの普及活動を実施した。
- 病院祭りに参加した普及活動：9か所、その他のイベントに参加した普及活動：1か所、ショッピングセンター内での普及イベント：1か所
- 平成31年3月末時点と令和2年1月末時点を比較すると、参加医療機関等は平成31年3月末848施設から令和2年1月末861施設へ13施設の増加、まめネットカードの発行枚数は平成31年3月末51,541枚から令和2年1月末57,074枚へ5,533枚の増加となった。
- 令和元年9月に「外国人患者受入れの在り方に関する協議会」を開催し、医療機関、医師会、しまね国際センター、消防、観光、行政等の関係者の間で、外国人患者の受入れに関する現状・課題や今後の取組みについての意見交換を行った。
- 令和元年9月に外国人患者を受け入れる医療機関リスト（30施設）を国に報告とともに、県のホームページに掲載した。
- 令和元年12月に「外国人患者受入れに係る医療機関向け研修会」を開催した。
- 医療機関（7施設）における翻訳機能付き情報通信端末等の導入経費への補助を行った。

その他（医療連携体制の構築、医療に関する情報の提供）

R01年度中の取組み状況（各圏域）

1. 医療連携体制の構築

松江	<ul style="list-style-type: none">○松江地域保健医療対策会議、保健医療対策会議 医療介護連携部会（松江地域医療構想調整会議）、病院長等会議を開催し、圏域における医療機能分化や連携、医療介護連携等について検討した。○医療法等の一部改正により、圏域版の医師確保計画及び外来医療計画を策定した。○厚生労働省から、再検証を求める医療機関として圏域内の松江医療センター、JCHO玉造病院が該当となった公表がなされ、3月末までに再検証の結果報告を行うこととしている。○病床稼働率による病床削減や病院から診療所への転換等による病棟廃止の医療機関もあり、圏域全体の病床数は減少傾向にある
	<ul style="list-style-type: none">○地域医療構想調整会議医療部会（9月、11月）において、地域医療構想を踏まえた協議を実施（雲南保健所）○地域医療検討会議（3月）において、首長、病院長、医師会長等が地域医療について協議（雲南保健所）○地域医療連携推進法人の立ち上げに向けた検討の実施（雲南市立病院、町立奥出雲病院）※取注：2月市町議会で公表予定○令和元年11月、人材育成をテーマに「第15回雲南の地域医療を考えるシンポジウム」を開催（雲南地域医療を考える会）○関係機関が参加する救急連絡会議の隔月開催（雲南市立病院）○まめネットを活用した特別養護老人ホームとの連携（雲南市立病院）
	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none">○医療・介護連携専門部会を開催し、医療機能分担や連携の在り方について下記の内容を検討した。（6/4 10/7 3/2）<ul style="list-style-type: none">・各病院の2025年に向けた対応方針を情報共有・医師確保計画、外来医療計画の圏域版を検討・厚生労働省より求められた出雲市立総合医療センターの再検証について検討・老健の実態調査を踏まえ、老健等病院の連携について検討・救急医療と地域の連携について検討○在宅医療座談会の開催（保健所実施3ヶ所）○地域包括ケアフォーラムを開催予定。（3/7）
	<p>【課題】</p> <p>地域医療構想の必要病床数と病床機能報告を比較すると、高度急性期・急性期病床が多く回復期病床が少ない状況となっており、圏域の需要を見極めながらさらに議論を深めていくことが求められている。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○医師確保計画・外来医療計画について関係機関ヒアリング ○病院長会議の開催 3月5日予定 ○医療介護連携部会の開催 <p>9月26日 大田圏域における医療機能の現状について 医師確保計画・外来医療計画について</p> <p>11月28日 医療介護連携部会の要項変更について 医師確保計画・外来医療計画について 新大田市立病院建設事業の進捗等について 平成30年度病床機能報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大田圏域保健医療対策会議の開催（3月5日予定） 各機関の取組状況 医師確保計画・外来医療計画について ○しまね型医療提供体制構築事業（圏域課題解決推進事業）を活用した仁寿会の地域包括ケア推進事業展開 ○医療連携推進コーディネータ配置事業による邑智郡医師会の活動支援 ○4病院連携協定による人材交流の実施 ○大田圏域入退院ガイド検討委員会の実施 ○大田市地域医療提携体制のあり方検討会への参画 ○邑智郡地域連携推進協議会への参画 ○地域医療を守り育てる住民活動inおおちの開催支援（11／23） ○医療介護連携ITシステム構築支援事業によるまめネットの居宅支援事業所等への導入。 <p>R2. 3</p>
浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年11月18日に「浜田圏域保健医療対策会議 医療・介護連携部会」を開催し、病床については介護医療院への移行等をポイントに意見交換した。また、「江津市医師会 医療連携推進コーディネーター配置事業」の進捗状況や「地域医療連携推進法人江津メディカルネットワーク」の設立についての情報提供もあった。併せて、医師確保計画と外来医療計画についての説明もした。（保健所） ○済生会江津総合病院抜本的経営改善に係わる協議会にて、済生会江津総合病院の将来構想について議論中。今年度で協議会は終了した。（医療政策課主催） ○医療従事者確保等において基金を活用している。（浜田医療センター） ○医療に関する相談を医療安全相談窓口で対応し、関係部署と連携を図り、適切な対応に努めている。【令和2年1月29日現在、相談者実人数14名（延べ22名）】 ○地域医療連携推進法人江津メディカルネットワークが設立し、医師確保等、医療を提供するための取組を進めている。（江津市医師会） ○まめネットの普及状況としては、平成30年4月末時点での浜田市の接続数が69。江津市の接続数が17。令和元年12月末時点での浜田市の接続数が67と減っており、江津市の接続数が19とあまり増加はみられない。 ○まめネットカード発行枚数としては、平成30年4月末時点での浜田市が2,877枚、江津市が1,476枚。令和元年12月末時点での浜田市が3,743枚、江津市が1,988枚と増加している。 ○広報誌でまめネットカードについて周知した。（浜田市） ○R2.4月より、「しまね医療情報ネットワーク（まめネット）」への連携を開始し、医療機関間でのカルテ等の診療情報を共有できる体制整備を行った。（環境保健公社） ○「まめネット」の提供情報を拡大し、医療機関、介護施設等との連携を深めた。（済生会江津総合病院）

	<ul style="list-style-type: none"> ○益田圏域保健医療対策会議及び同医療・介護連携部会、益田地域病院長等連絡会議において、圏域地域医療構想計画・「公立病院改革プラン」「公的医療機関等2025プラン」の進捗について検討を進めている。 <p>津和野共存病院は、H31.11休棟中の介護療養病床を老人保健施設へ転換。益田地域医療センター医師会病院は、R2.2介護療養病棟を介護医療院へ、休床中の一般病床を外来人工透析施設へ転換等、圏域合意を取り進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上記会議において、島根県医師確保計画及び外来医療計画圏域計画の策定。 ○益田市医師会が助成を受けている「地域医療介護総合確保基金」の「しまね型医療提供体制構築事業（圏域課題解決推進事業）」「医療連携推進コーディネーター配置事業」実施について、圏域課題を共有し取組み内容を協議しながら進めている。 ○益田医師会病院では、病床の休床部分を外来人工透析機能へ、介護療養病床を介護医療院へ転換。 ○益田市医師会が実施している基金事業「圏域課題解決推進事業」の中の管内医療連携実務者会議では、圏域の入退院連携の課題について情報交換がされている。R1年度は、入退院連携、まめネット、病床機能の住民理解、ACP等の圏域課題について検討。保健所からは、住民へ圏域の医療体制・病院機能を啓発するための、管内共通の啓発媒体の作成し提案するとともに、まめネットについての情報提供と、検討を始めている。 ○消防本部における、益田地区救急業務連絡協議会、県が実施する島根県ドクターへリ調整委員会等において検討正在进行。 ○圏域内のドクターへリの運行について、六日市病院のドクターへリ地域ルールを圏域関係者の合意を得変更した。 ○益田圏域は他圏域と比べ「まめネット」の普及率は低い。昨年から加入機関数は変化していない。 ○管内医療行政実務者連絡会において、「まめネット」について情報提供する機会を設け、情報を共有した。今後、圏域内での活用方法について検討を進めることとなった。
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年2月20日開催の隠岐地域保健医療対策会議（在宅医療部会）において、今年度より隠岐広域連合が中心となって検討を進めている病診連携のあり方について、その検討状況を本会でも紹介するとともに方向性を議論。

2. 医療に関する情報提供の推進

出雲	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅医療座談会の開催（保健所実施3ヶ所） ○地域包括ケアフォーラムを開催予定。（3/7） ○医療安全相談窓口専用ダイヤルを設置し運用している。 相談件数：(H30年度：30件 H31年度：22件 (R2年1月末時点)
雲南	<ul style="list-style-type: none"> ○「住民が担う地域医療の認識と実践」をテーマに研修会を開催（がんばれ雲南病院市民の会）
大田	<ul style="list-style-type: none"> ○がんサロンなどでポスター・チラシを活用し情報提供 ○医療法の立入検査時に指導 ○医療相談電話等で随時対応 ○外国人に対応するため、外国語のコミュニケーションツールを活用

浜田	<ul style="list-style-type: none"> ○難病患者・家族会等に対して、学習会として医療に関する情報提供をした。（神経難病、網膜色素変性症など）（保健所） ○医療機関情報をホームページに掲載している。「浜田の地域医療を守る会」のサポートをしている。 「浜田医療センターのがん相談室」が設置されている。 「ほっとサロン浜田（がん患者と家族のサロン）」が週1回浜田医療センターにて開催されている。（浜田市） ○「がんケアサロン江津」が江津市保健センターにて、月1回（第3土）開催されている。必要に応じて、情報提供を行っている。（江津市） ○隨時、違法な広告の問い合わせがあった時は、医療政策課と協議し、対応・指導している。（保健所） ○病院に対する苦情・相談に対して、「患者サービス向上委員会」を見直し、患者サービスの向上に努めている。（浜田医療センター） ○各医療機関から問い合わせがあった場合は、保健所が支援する。（保健所） ○外国人傷病者に対し、救急ボイストラ（翻訳アプリ）を活用している。（消防） ○外国人が受診時に困らないよう救急外来に翻訳機器を購入した。（浜田医療センター）
益田	<ul style="list-style-type: none"> ○「益田市の医療を守る市民の会」「津和野町の医療を支援する会」や「がんサロン」等の学習会や情報提供の取組の支援をしている。 ○島根県医療機能情報システムの更新を随時行い、住民からの問い合わせに活用するとともに、圏域の在宅医療・緩和ケア資源情報の整理にも活用している。 ○情報についての質問や相談について、保健所の医療安全相談窓口で対応している。 ○各機関等の開設時に適宜指導している ○住民からの苦情・相談について、内容を検討し、適切な対応に努めている。
島前	<ul style="list-style-type: none"> ○がんサロンの活動が継続出来るよう、企画・広報等の運営に関与（島前地区）